

青年期の性の自己評価尺度の開発

(Development of Sexual Self-assessment Scale

for Adolescents)

東京医療保健大学大学院看護学研究科博士課程

山上 妙子

青年期の性の自己評価尺度の開発

東京医療保健大学大学院看護学研究科博士課程

山上 妙子

目次

第1章 序論	1
I. はじめに.....	1
II. 研究背景.....	2
1. わが国と諸外国の性教育における性（Sexuality）の捉え方.....	2
2. ライフステージでみたわが国と諸外国における性に関する先行研究.....	2
3. SSAS を開発することの意義.....	4
III. 研究目的.....	6
IV. 研究の構成.....	6
第2章 SSAS 原版の作成と信頼性・妥当性の検証	7
I. 研究目的.....	7
II. 研究方法.....	7
III. 結果.....	13
IV. 考察.....	16
第3章 SSAS 修正版の作成と信頼性・妥当性の検証	19
I. 研究目的.....	19
II. 研究方法.....	19
III. 結果.....	25
IV. 考察.....	29
第4章 結語	32
I. 3つの性の概念.....	32
II. SSAS の特徴.....	33
III. SSAS の実践への活用.....	34
IV. 本研究の限界と今後の課題.....	36
V. 結論.....	37
謝辞	38
引用文献	39
図表	46
付録	71

第1章 序論

I. はじめに

現代の性の健康の指針ともいえる「性の権利宣言」は、1999年に採択され、性に関する基本的かつ普遍的な権利として掲げられた具体的な指針が示されており、時代とともに改訂が進められ、すべての人々が他者の権利を尊重しつつ、性の健康を楽しむことを保護するものとして発信されている（東ら 2015）。

しかしながら、わが国における年齢別にみた性感染症報告数では、2019年の20～24歳の性器クラミジア罹患数は、8,093名と他の年齢層と比較して最も高く、増加の一途を辿っている（厚生労働省 2019）。また、2019年の母の年齢別にみた出生数では、20～24歳で72,092名と前年に比べ減少傾向である（厚生労働省 2020）。一方、20～24歳の人工妊娠中絶数は、2018年で39,455件、2019年で39,733件と漸増している（厚生労働省 2021）。これは、わが国の性交渉経験率が関与していることが考えられ、性交経験率は高校生で20%前後、大学生で50%前後と急増する（日本性教育協会 2019）。性感染症の予防や避妊の方法に、コンドームや経口避妊薬など多数の方法があるが、2019年に国連が発表した15～49歳における女性の避妊法普及率によると、男性用コンドームは、米国で9.3%、ドイツで10.0%であるのに対し、わが国は34.9%と高い（United Nations 2019）。一方、女性が主体的に取り組める経口避妊薬は、米国で13.7%、ドイツで31.7%に対し、わが国は2.9%と非常に低い（United Nations 2019）。わが国において、経口避妊薬など新しい避妊法や女性が主体的に取り組める避妊法は諸外国と比べても圧倒的に後れがみられる（United Nations 2019）。

これらのことから、若者における性感染症(STI)の増加や人工妊娠中絶の要因は、幼少期からの性教育が不十分であることに加え、受験からの解放や大学生・社会人としての新生活による環境や心理状況が性行動に大きく影響していることが推察される。性に関する科学的な知識や情報を修得した上で、自分がどのような性的傾向にあるのかを理解していくことが重要であると考える。そこで、この世代への働きかけの土台となる自身の性的傾向を自己評価できるツールが必要であると考えた。

II. 研究背景

1. わが国と諸外国の性教育における性（Sexuality）の捉え方

わが国では、性教育を実施する際に Sexuality を①生殖性、②快楽性、③連帶性の 3 側面で捉えており、性教育を実施する際はこれらの概念を取り入れて指導されていることが多い（青木ら 2003）。一方、諸外国における性教育は、CSE（Comprehensive Sexuality Education；包括的性教育）に基づき、自らの健康、幸福、尊厳を守るために、性的な生活における適切で健康的な選択ができるよう知識・技術・態度・価値観の獲得を目指した教育が実施されている（UNFPA 2019）。また、様々な機関が質の高い CSE を実践するために、プログラムやフレームワークを公表しており、中でも先駆けとなる IPPF（International Planned Parenthood Federation；国際家族計画連盟）のフレームワークは、Dennis M. Dailey（1981）によって考案された「The Circles of Sexuality モデル」を基に作成されている（Dailey 1981・2017, Goldfarb et al. 2011）。

The Circles of Sexuality モデルは、Sexuality を理解するためのモデルで、①Sensuality（官能性）、②Intimacy（親密性）、③Identity（同一性）、④Reproduction（生殖性）、⑤Sexualization（セクシャライゼーション）の 5 つの側面で捉えており、諸外国の多くが性教育に活用している（Goldfarb et al. 2011, UUA 2014）。The Circles of Sexuality の 5 つの側面は、個々で独立した側面を持つが、Sexuality の全体像を捉える際には、それぞれの側面の相互作用や重なり合う質の脈絡を理解する必要があり、1 側面の変化が他の側面に変化をもたらす可能性をもつといった特徴がある（Dailey 1981・2017）。また、Sexuality の相互作用的側面は、社会や文化など、より広い枠組みの中で見る必要があることがいわれている（Dailey 1981・2017）。

わが国における性交渉の低年齢化や性感染症の増加等の状況を鑑みると、性的健康がより良い状態であるためには、多面的に Sexuality を捉え、個人の性的傾向の理解へ働き掛けていくことが肝要であると考える。

2. ライフステージでみたわが国と諸外国における性に関する先行研究

セクシャリティや性行動に関してこれまで多くの研究が蓄積されている。

1) 思春期・青年期

わが国では、大学生の性行動の実態と性感染症罹患に対する予防行動の調査によると、性交経験有群のうちコンドームを必ず使用する者は 6 割であり、その使用率の低さから大

学においても性感染症予防に向けた教育が必要であることが述べられている（若林ら 2018）。また、看護系大学生の妊娠性知識と性的自己意識の影響要因について調査した研究では、性的自己意識は、初交年齢、交際経験、不妊症原因の知識と正の相関があり、クラミジア初期症状の知識、HIV 検査場所の知識と負の相関があったことから、妊娠性がもたらす影響を広く捉える性教育の充実や、性的自己意識を高める必要が示唆されている（北村（難波）ら 2021）。一方、諸外国では、性的マイノリティを対象とした性行動とシンデミック指標（アルコールや薬物など）の調査から、多くの若い性的マイノリティが複数のシンデミック指標を持つこと、それぞれのシンデミック指標が相互に関連していることが明らかとなっており、コンドームなしでの性交に従事する可能性を示唆している（Nelson et al. 2019）。また、南アフリカの青年を対象とした性的価値観と態度、自尊心、メンタルヘルスに関する調査では、メンタルヘルスはセクシュアリティに関する価値観や親密さの側面に対する健康的な態度に間接的な影響を及ぼしていることを明らかにしている（Kheswa et al. 2017）。このほか、低い自尊感情は、若者の逸脱した性的行動、性的リスク行動、虐待的な性的行動に関する肯定的な自尊感情は、人間関係における親密さと満足度の向上、および他人を愛し、世話をする能力に関することが明らかになっている（Kheswa et al. 2017, Mash et al. 2015）。

2) 青年期以降

わが国では、渡曾ら（2015）のクラミジア・淋菌の咽頭陽性率に関する調査において、25～39歳と40～54歳では、40～54歳で男女咽頭クラミジア・男性性器クラミジアが有意に高いことを明らかにしている（渡曾 2015）。また、高齢者の性に関する成人の知識に影響する要因の研究では、高齢者の性に関する正しい知識が普及していないことがわかり、その要因として高齢者の性に対するダブル視、或いは枯れるのを理想とする老人観が払拭されないと述べられている（御園ら 2015）。一方、南アフリカの農村部におけるライフコース別にみた性行動と HIV の実態調査によると、高齢者では婚外性交渉とコンドームの使用の少なさが明らかとなっている（Houle et al. 2018）。また、高齢者の性行動を条件付ける要因の系統的レビューによると、ほとんどが女性を対象とした研究であり、勃起不全や閉経、性行動のステレオタイプに関連する内容であった（Ricoy-Cano et al. 2020）。さらに、ヨーロッパ 4 か国の高齢者におけるパートナーおよび非パートナーとの性的活動と性的満足度を明らかにした調査によると、パートナーの性的活動はヨーロッパ南部でより頻繁であり、対象者の 40～60% が性的に満足していることが明らかとなり、パ

ートナーを持つことが性的活動と性的満足度の最も重要な前向きな予測因子であることを示唆している (Træen et al. 2019)。

以上のことから、わが国と諸外国では、その社会的・文化的背景から性に関する諸問題も異なっていることが理解できる。わが国では若者の性行動の実態や性意識の結果から、性教育の拡大や充実を重視しているが、個人がそれをどう自覚しているかフィードバックすることの必要性までは言及されていない。また、諸外国においては、性のリスク行動に至る要因が異なることがうかがえ、性同一性や自尊心などメンタルヘルスによる影響も要因の1つであることが考えられる。青年期以降においては、わが国を含めた高齢社会である国々が、高齢者の性に対する周囲の認知や、オーラルセックスなど性行動の多様化に伴う感染部位の変化、途上国では青年期同様に性感染症などのハイリスクな性行動について研究されている。これらのことから、要因はそれぞれ異なるにせよ、どの世代においても性感染症などのハイリスクな性行動は散見されており、発達段階の早いうちから自身の性に対する理解を自覚させることが重要であることがうかがえる。

3. SSAS を開発することの意義

諸外国やわが国において性に関する尺度は、これまでにも多数開発されている。わが国では、心理・行動科学的な立場から、大学生を対象に「状況優先的思考」、「性的開放性」、「予防意識」、「楽観的思考」の4概念から構成される大学生の性感染症予防行動に関する意識尺度 (尼崎ら 2008) が開発されている。また、青年心理学領域から、大学生を対象に性的自己意識と性的リスク対処意識を測定する尺度が開発されている (草野 2007)。この尺度は、心理学の視点から、性的自己概念を性的自己意識と性的リスク対処意識の2側面から捉え、相互にどのように関係しているのか、性交経験の有無との関連を明らかにする目的で開発されており、性感染症や望まない妊娠、人工妊娠中絶の増大といった当時の社会背景から大学生を対象としている (草野 2007)。さらに、上田 (2014) は、性行動が開始・活発化する中学生を対象に、「性行動リスク性」、「性行動追求性」、「生命と性の尊重性」、「恋愛尊重性」の4つから構成される中学生版の性の健康心理尺度を開発している (上田 2014)。この尺度は、性教育を実施する前の中学生の実態把握や、教育介入前後の心理的変化を測定し、教育の効果を明確にする目的で開発されている (上田 2014)。一方、諸外国では、期待理論から開発された青年期の性的期待尺度がある (Bourdeau et al. 2010)。期待は、行動に対する社会的および環境的影響の主たる仲介要因である (Goldman et al. 1999)

ため、青年期の性行動を理解するために性的期待が重要である可能性があることから開発されている (Bourdeau et al. 2010)。また、「強み」、「親密さ」、「対処」、「価値観」、「健康」、「準備不足」の6の下位尺度から構成される青年期を対象とした性行動に対する動機尺度は、性感染症の有病率と青年および若年成人の間の望まない妊娠といった諸問題から、研究者や臨床医が性行動に対する動機付けの重要性を確実かつ有效地に評価するために開発されている (Patrick et al. 2011)。

青年期以降では、高齢者の性に関する知識および態度を評価することを目的とした Aging Sexual Knowledge and Attitudes Scale 日本語版（赤嶺ら 2003）や、慢性病を持つ高齢者の性に関する看護師の認識、感情と援助への行動意図との関係を明らかにするために作成された「慢性病をもつ高齢者の性に関する看護師の認識尺度」、「高齢者の性に関する看護師の感情尺度」、「高齢者の性に関する援助への行動意図尺度」（小松ら 2003）などがある。諸外国においては、50歳以上の高齢者集団のHIV危険因子の早期発見とスクリーニングを目的として開発されたHIVリスク評価スクリーニングツールがある（Miller 2014）。

その他にも多くの性に関する尺度が開発されているが、ハイリスクな性行動にまつわる尺度は、性行動が活発化し、性感染症や人工妊娠中絶などの社会的な問題から思春期・青年期を対象にしたものが多く見受けられる。また、研究者や教育者による性教育の評価や性の実情、性的問題を把握するための指標として開発されていると解釈でき、当事者である若者が自身の性的傾向を評価するツールや、本人の性的傾向を自覚させる目的をもった尺度は少なく、CSEで活用されている「The Circles of Sexuality (Dailey 1981・2017)」を理論的背景とした尺度は見当たらない。さらに中年期・高齢期を対象とした性に関する尺度は、当事者が自身の性を理解するものではなく、他者が高齢者の性を理解するものや、研究者らが臨床で活用するツールが開発されている。これらのことから、あらゆる世代において、性感染症などのハイリスクな性の諸問題から、これらの解決のためにスクリーニングや予防行動など様々な尺度が開発された経緯が読み取れる。しかし、それらは性を包括的に捉えた概念から開発された尺度ではないことが確認できる。

以上のことから、諸外国やわが国でハイリスクな性行動が散見される青年期を対象に、個人が自身の性的傾向を理解するためのツールが必要であると考えた。

III. 研究目的

そこで本研究では、諸外国の CSE で多く活用されている「The Circles of Sexuality (Dailey 1981・2017)」を理論的概念として、性行動が活発化する青年期を対象とした性の自己評価尺度（以下、SSAS）を開発することを目的とする。本研究の意義は、本尺度が開発されることで、自己の性的傾向が可視化され、自身の性の傾向を見つめ直すことが期待できる。これまで、当事者である若者自身の性的傾向を評価するためのものや、本人の性的傾向を自覚させる目的をもった尺度は少なく、性を包括的に捉えた概念から開発された尺度は見当たらないことから新規性があるといえる。

具体的には、教育現場の保健室で性の健康に不安を感じて相談にくる学生のカウンセリングに活用できる。また、性の健康問題を抱えて受診する産婦人科や泌尿器科、性感染症クリニックなどの医療機関で患者の性的傾向を自覚させることを目的に、活用することができる。本尺度が広く活用されることで、性の健康の保持増進に寄与できると考えた。

IV. 研究の構成

本論文は、第 1 章から第 4 章より構成する。第 1 章は序章、第 2 章は SSAS 原版の作成と信頼性・妥当性の検証、第 3 章は SSAS 修正版の作成と信頼性・妥当性の検証、第 4 章は結語とした。

各章における研究内容は以下の通りである。

1. 文献検討を通して、SSAS における性の概念を確定し、尺度項目を精選した。専門家による内容妥当性を検討し、対象年齢に該当する若者へのヒアリングを通じて表面妥当性の検討を行い、SSAS 原版を作成した。また、SSAS 原版の調査から、SSAS 原版の信頼性・妥当性を検証した。
2. 1 で行った調査をもとに、新たに生成された概念の定義の検討と、尺度項目の修正を行った。専門家による内容妥当性を検討と、対象年齢に該当する若者のヒアリングから表面妥当性の検討を行い、SSAS 修正版を作成した。また、SSAS 修正版の調査から、SSAS 修正版の信頼性・妥当性を検証した。
3. SSAS 開発における全体を通しての考察を行い、活用方法や評価方法について検討し、まとめとした。

第2章 SSAS 原版の作成と信頼性・妥当性の検証

I. 研究目的

SSAS 原版の作成と信頼性と妥当性を検証することを目的とした。

II. 研究方法

1. 研究デザイン

理論に基づく仮説検証型横断研究

2. 性の自己評価の概念および尺度項目

1) SSAS の概念化

「性の自己評価」とは、「自己の性的傾向を評価すること」と定義し、本研究における「性」は、Dennis M. Dailey (1981・2017) の「The Circles of Sexuality」の5つの側面から構成した(Dailey 1981・2017)。また、5つの下位概念の確定にあたっては、PubMed、Google Scholar を用い、〔The Circles of Sexuality〕、〔Sex education〕をキーワードに検索し、4文献から下位概念の定義を検討し、確定した(Advocates for Youth 1995, Bass 2016, Goldfarb 2011, Dailey 1981・2017)。表1-1、1-2に示す。

・Sensuality (官能性)

〔肉体的な性的快楽〕や〔それを通じた楽しみ〕、〔五感から刺激を受ける快楽〕などの内容から、様々な刺激を受け入れ、身体へ影響し快楽を得るための個人の考え方や能力と解釈し、「自分のからだの認識と受け入れ、肉体的な心地良さに対する考え方」と定義した。

・Intimacy (親密性)

〔相手との共有や共感〕や〔愛情や感情〕、〔脆弱性〕などの内容から、人との感情的な結びつきやそれに伴う喜びや憂いなどを受容する能力やそれらをアウトプットする能力と解釈し、「他の人間と感情的な近さやそれに伴う喜びや憂いに対する考え方」と定義した。

- ・ Identity (同一性)

〔性同一性〕や〔性役割〕などの内容から、自分自身の性的なアイデンティティの認識や性別的な役割などが含まれ、個人が性的な存在とどのように生きるかを思考する能力と解釈し、「男性性または女性性の感覚を含む性的な考え方」と定義した。

- ・ Reproduction (生殖性)

〔出産〕や〔生殖能力〕などの内容から、家族計画や妊孕性に関するリプロダクティブヘルス・ライツにおける自己の考え方や能力と解釈し、「妊孕性に関する自己期待を含む考え方」と定義した。

- ・ Sexualization (セクシャライゼーション)

性における〔パワー〕や〔性の利用〕、〔誘惑〕などの内容から、自分の身体の Sexuality な部分を利用した欲求の充足や他人を支配する感情や思考および行動と解釈でき、「Sexuality (身体) を利用して他人を操作しようとする考え方」と定義した。

2) 尺度項目の作成

(1) 尺度項目の草案

尺度項目の作成は、PubMed、Google Scholar、医中誌 Web 版を用い、キーワードは〔The Circles of Sexuality〕と 5 つの概念 (Sensuality, Intimacy, Identity, Reproduction, Sexualization) のどれか 1 つに〔性教育 (Sex education)〕もしくは〔性的健康 (Sexual health)〕を加えて検索した。その結果「The Circles of Sexuality」が直接用いられている 10 資料、これらに関係する資料の計 20 資料を参考に 39 項目を作成した。本尺度が非常にデリケートであるため、回答のしやすさを考慮して、断定的ではなく柔軟な表現とし、下位概念の定義と構成要素からキーワードを抽出し、それらが反映される項目となるように作成した（表 2-1、2-2）。

(2) 内容妥当性

母性看護学・助産学領域・公衆衛生看護学領域・精神看護学領域の研究者、産婦人科医師の計 6 名の有識者にスーパーバイズを求め、尺度項目について検討した。全体的に表現の具体化と統一を行い、ワーディングを修正し誤解のない表現とした。3 項目の削除と 9 項目を追加し、各概念 9 項目の計 45 項目の尺度とした。

(3) 表面妥当性

対象年齢に該当する男女 10 名にヒアリングを実施し、性に関する用語の説明の加筆や曖昧な表現である 10 項目の修正を行った。

(4) 尺度項目の決定

本学倫理委員会より意見のあった「生殖性」1項目と「セクシャライゼーション」2項目の計3項目について、対象者が不快に感じず、質問の意図が損なわれないよう修正し、最終的に各概念9項目から構成される45項目の尺度とした（表3）。

3) 回答形式

回答形式は、自身の性に対する考え方についての頻度を、「4：全くそう思わない」～「1：非常にそう思う」の4件法とし、各回答を1～4点に得点化した。

3. 性の自己評価の概念枠組み

上記の概念をもとに、SSASを開発するまでの概念図を図1に示す。性の自己評価を「自己の性的傾向を評価すること」と定義し、Dennis M. Dailey (1981・2017) の「The Circles of Sexuality」の5つの側面から性を構成した(Dailey 1981・2017)。先行研究から、性に関する個人の考えは、性行動や自尊感情と関連するため(Mash et al. 2015, Kheswa et al. 2017)、SSASの外的基準尺度として「大学生用リスクティキング行動尺度(小塩 2001)」および「Rosenberg 自尊感情尺度日本語版(Mimura et al. 2007)」を設定した。また、SSASと「性交経験」との関連を確認し、妥当性を検討した。

4. 調査方法

無記名自記式質問紙調査（オンラインによるWeb調査）

5. データ収集期間

2020年3月～2021年1月

6. 対象者

1) 対象者の年齢

対象者の年齢は、日本性教育協会の「青少年の性行動経験率(日本性教育協会 2019)」、および厚生労働省の「年齢別性感染症報告数(厚生労働省 2019)」、「人工妊娠中絶数(厚生労働省 2020)」、「出生数(厚生労働省 2021)」から検討した(厚生労働省 2019・2020・2021、日本性教育協会 2019)。

その結果、性行動経験率が大学生になると高校生の2～3倍に上昇すること、性器クラミジア感染症や淋菌感染症が20～24歳で最も多くみられること、人工妊娠中絶数が20～24歳で増加していること、出生数が15～19歳で毎年1000人前後みられることを受け、本研究では18～24歳の若者を対象とした（厚生労働省 2019・2020・2021、日本性教育協会 2019）。

2) 対象者の選定

総務省統計局によると、18歳人口の約67.5%が高等教育機関に所属しているため、高等教育機関に所属する500名とした（総務省 2017）。標本サイズを比例割当法で検討し、大学群と専門学校群の割合が4：1となるよう操作し、大学群400名、専門学校群100名の計500名とした。

7. データ収集方法

1) 調査の手続き

全国の高等教育機関の所属長に対して、調査実施と調査対象者への調査に関する協力及び調査に関する書類一式（調査フォームを含む）を文書もしくは口頭にて依頼した（様式1～3）。調査実施への協力同意が得られた施設には、署名された同意書と調査フォームへアクセスするQRコードを添付した調査依頼書の配布部数を記入した書類の返送を依頼した。同意書の返送が得られた施設に、本研究で使用するQRコードを添付した調査依頼書（様式2）を送付し、本研究の対象となる者への配布を依頼した。なお、同意書返信後からフォーム送信までの間は、同封の撤回書にて承諾の撤回が可能である旨も伝えた。

2) 配布方法

調査協力同意の得られた高等教育機関の本研究協力について、窓口となる責任者を通して、対象者に対しQRコードを添付した調査依頼書（様式2）を配布した。調査フォームへアクセスし、調査項目入力後の送信もって調査研究協力への同意を得たものとした。なお、締め切りは、調査協力依頼書の配布から約2週間とした。

8. 調査項目（様式3）

1) 個人属性（性別、年齢、パートナーの有無等）

先行研究より、性行動や性的価値観および性的健康に関する9項目を設定した。

2) SSAS 尺度項目

5 概念 45 項目について、4 件法のリッカートスケールで尋ねた。

3) 大学生用リスクティキング行動尺度

「大学生用リスクティキング行動尺度（小塩 2001）」は、12 項目 4 件法で設定されており、Cronbach's α 係数は、0.70 前後とそれほど高い値ではないが、再テスト法による相関係数は 0.83 と高く、心理学の分野で多く活用されている（小塩 2001）。本尺度の使用にあたっては、開発者の所属機関のホームページに、尺度の引用元となる文献を明示すれば自由に使用が可能であることが掲載されているため、特別に使用許諾の連絡はしていない。

4) Rosenberg 自尊感情尺度日本語版

「Rosenberg 自尊感情尺度日本語版（Mimura et al. 2007）」は、10 項目 4 件法で設定されており、Cronbach's α 係数は、0.81 で、再テスト法による級内相関係数（ICC）は、0.78 である（Mimura et al. 2007）。本尺度の使用は、原著者から承諾を得ている。

9. 分析方法

1) 記述統計量の算出

調査項目の全項目の記述統計量を算出し実態を把握した。

2) SSAS 尺度項目の項目分析

尺度項目の 45 項目について、質問項目ごとに回答割合や正規分布をなすか確認し、平均値と標準偏差を算出した。平均値と標準偏差の値から、天井効果・フロア効果（平均 ± 1 SD）を示す項目がないかを確認した。次に、項目の重複を避けるために、項目間の相関係数を算出した。相関係数が 0.7 以上の場合、それらの項目の内容が非常に類似しているため、一方の項目を除外することにした。また、各項目の弁別力を検証するために、尺度全 45 項目の下位尺度合計得点について、四分位法により上位群、下位群に分け、各項目得点の平均値を t 検定によって比較し、有意差がない項目を除外することとした（G-P 分析）。さらに、内的整合性を検証するため、Spearman の順位相関分析を用いて尺度の各項目得点と当該項目を除く合計得点における相関係数を確認し、相関係数が 0.3 を満たさない項目を除外することとした（I-T 相関）。

なお、相関分析における相関係数の基準は、内田ら（2015）の数値を参考に、「0.7以上；強い相関」、「0.7～0.5；中間の相関」、「0.5～0.3：弱い相関」、「0.3以下；相関なし」とした（内田ら 2015）。

3) 探索的因子分析

探索的因子分析は、固有値が 1.00 未満であり因子負荷量が 0.40 以上であることを条件に下位尺度を確認し、下位尺度の命名を行った。

4) 尺度の信頼性の検討

尺度および外的基準尺度について内的整合性を確認するため、Cronbach's α 係数を算出した。

5) 尺度の妥当性の検討

基準関連妥当性は、作成した尺度が理論的に関連の強い構成概念を測定する外的基準とどの程度の相関がみられるかを確認することである。尺度項目が外部の基準とどの程度関連を示すかで検証する。妥当性は、先行研究（Mash et al. 2015, Kheswa et al. 2017）より「大学生用リスクテイキング行動尺度（小塩 2001）」および「Rosenberg 自尊感情尺度日本語版（Mimura et al. 2007）」を用いて検討した。

また、構成概念妥当性の検討とは、他の心理的特徴との関連を理論的に予測し、実際にデータを収集して予想通りの関連がみられるかどうかを検討することである（宮本ら 2019）。そこで、上記の探索的因子分析のほか、SSAS と性交経験との関連を確認した。

全ての分析は SPSS Statistics ver 25.0 for Windows を用いて実施する（両側検定、有意水準 5%）。

10. 倫理的配慮

本研究は、東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会の承認を得て実施した（院 31 – 67 A）。

調査協力は、自由意思であること、匿名性を保証すること、データは本研究の目的以外に使用しないこと、調査フォームの送信をもって調査に同意したとみなすこととし、回答中に精神的な苦痛を感じた場合は、いつでも中断できること、性に関する臨床心理士を紹介すること等を調査協力依頼文書に明記した。

III. 結果

1. 配布と回収の状況

首都圏における大学 6 施設、専門学校 2 施設、計 8 施設の高等教育機関より同意が得られ、同意が得られた施設に所属する 18~24 歳の青年男女を対象とした。437 名から回答が得られ、このうち SSAS の欠損のみられた回答や、重複回答と思われる回答の 78 名を除き、359 名を分析対象とした（有効回答率 82.2%）。

2. 対象者の属性

対象者の属性を表 4 に示す。

対象の性別は、「男性：131 名」、「女性：228 名」と女性が約 6 割を占め、「大学生：149 名」、「専門学校生：10 名」と 9 割以上が大学生で、平均年齢は 19.95 (± 1.42) 歳だった。

インターネットの利用時間では、「3 ~ 6 時間：138 名」と最も多く、次いで「暇さえあれば常に：111 名」だった。

また、パートナーの有無では、「いない：226 名」が全体の 6 割を占めた。性交経験の有無では、「経験あり：209 名」と回答した者が 6 割弱存在し、うち初性交時の平均年齢は 17.51 (± 1.66) 歳であった。

3. 項目分析

項目分析の結果を表 5-1 から表 5-3 に示す。

1) 天井効果とフロアーエffect

全尺度項目のうち、9 項目 (No.17, 22, 23, 24, 30, 31, 32, 34, 35) で天井効果 (4.0 以上) が認められ、フロアーエffect (1.0 以下) は、8 項目 (No.7, 8, 27, 37, 39, 40, 41, 44) で認められた。

2) I-T 相関

Spearman の順位相関分析において相関係数が 0.3 以下であった項目は、20 項目 (No.4, 8, 13, 14, 17, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 31, 33, 34, 35, 36, 40, 41, 43, 44) であった。

3) G-P 分析

尺度の合計得点から下位群 (n = 95, 25% : 111 点以下)、上位群 (n = 94, 75% : 130 点以上) を抽出し、G-P 分析を行ったところ、4 項目 (No.14, 17, 41, 43) で 2 群間に有意差が認められなかった。

4) 項目間相関

Spearman の順位相関分析において相関係数 0.7 以上の組み合わせ確認したところ、2 組（No.3 と 6、No.25 と 26）みられた。

5) 項目内容の解釈

「官能性」では、No.3, 6 で項目間相関がみられ、今後の調査における回答のしやすさ等を勘案して、No.6 を削除することとした。また、No.7, 8 ではフロアー効果が確認され、No.4, 8 においては I-T 相関での相関係数も低いことから、4 項目を削除することとした。

「親密性」では、No.13, 14, 17 において、I-T 相関での相関係数が低く No.14, 17 においては G-P 分析でも有意差が認められなかった。また、No.17 においては天井効果も確認できたため、3 項目を削除することとした。

「同一性」では、No.22, 23, 24, 25, 26, 27 で I-T 相関での相関係数が低く、No.22, 23, 24 では天井効果も確認された。No.27 はフロアー効果も確認されたため、6 項目を削除することとした。

「生殖性」では、No.30, 31, 32, 34, 35 の 5 項目で天井効果が確認できた。さらに、No.31, 33, 34, 35, 36 の 5 項目で I-T 相関での相関係数が低かった。該当する全ての項目を削除すると、「生殖性」の概念に包含される「妊娠性」の意味合いが薄れてしまうため、I-T 相関および天井効果のどちらか 1 つのみに該当し、除外基準値に近い値である No.30, 33 を残すこととした。

「セクシャライゼーション」では、No.37, 39, 40, 41, 44 の 5 項目でフロアー効果が確認された。また、No.40, 41, 43, 44 の 4 項目で I-T 相関での相関係数が低く、そのうち No.41, 43 は G-P 分析でも有意差が認められなかった。そのため、I-T 相関および G-P 分析で基準を満たさなかった No.41, 43、フロアー効果と I-T 相関で基準値を満たさなかった No.40, 44 の計 4 項目を削除することとした。また、フロアー効果のみで基準値を満たさなかった No.37, 39 についての削除を検討したが、「セクシャライゼーション」の概念が薄れてしまうこと、除外基準値に近い値であるため残すこととした。

以上より、22 項目を除外することとした。

4. 探索的因子分析

項目分析で検討した 23 項目について探索的因子分析（主因子法・回転なし）を実施した。独立変数として投入した 23 項目のうち、正規分布していない項目がみられたこと、計算上のエラーが起こりにくいという利点から主因子法による分析とした（対馬 2020）。固有値およびスクリープロットを勘案し、因子数を 4 と仮定し、因子数を 4 とした主因子法・プロマックス回転の因子分析を実施した。いずれの因子負荷量も 0.40 未満である項目（No.42）を除外し、因子の意味内容から逸脱する項目（No.18, 21）を除外し、再度分析したところ、No.45 の因子負荷量が 0.40 未満であったため削除した。

再度、因子数 4 とした因子分析を行い、19 項目 4 因子構造からなる尺度となった。最終的な因子分析の結果を表 6 に示す。

1) 因子の命名

第 1 因子は、5 項目から構成され、「人とのスキンシップを求める」、「人との身体的な距離感の近さで幸せを感じる」などの項目から、人との物理的距離感の近さを表した内容と解釈し、「近接性」と命名した。

第 2 因子は、4 項目から構成され、「自分の性欲を満たすために性交（セックス）を迫ろうとする傾向がある」、「自身の性欲は性交（セックス）で満たされる」などの項目から、肉体的な性的快感を求める内容を表していると解釈し、「官能性」と命名した。

第 3 因子は、6 項目から構成され、「加齢に伴う生殖機能の変化について知っている」、「自身の健康的な性機能について知っている」などの項目から、リプロダクティブ・ヘルスについてあらわした内容と解釈し、「生殖性」と命名した。

第 4 因子は、4 項目から構成され、「人に対して思いやりが深い」、「人に対して愛情が深い」など、仮説概念に含まれていた項目のうち、他人（相手）に対する親しみや愛情の深さやそれらの表現を示す内容で集約されたため、「親愛性」と命名した。

2) 因子間相関

第 1 因子「近接性」との相関は、第 2 因子「官能性」($rs=0.56$)、第 4 因子「親愛性」($rs=0.50$) と中程度の正の相関がみられ、第 3 因子「生殖性」($rs=0.36$) とは弱い正の相関がみられた。

第 2 因子「官能性」は、第 1 因子「接近性」と中程度の相間にあったが、第 3 因子「生殖性」($rs=0.34$) と弱い正の相関がみられた。しかし、第 4 因子「親愛性」($rs=0.28$) とは相関がなかった。

第3因子「生殖性」との相関は、第1因子「近接性」と第2因子「官能性」とは弱い正の相関があり、第4因子「親愛性」($rs=0.31$)とも弱い正の相関があった。

5. 尺度の信頼性の検証

尺度全体および因子ごとの Cronbach's α 係数を算出したところ、尺度全体の Cronbach's α 係数は 0.85、第1因子～第2因子、第4因子は 0.73～0.81 と 0.7 を超えていたが、第3因子は 0.67 で 0.7 を超えていなかった（表7）。

6. 尺度の妥当性の検証

1) 基準関連妥当性

2つの外的基準尺度の Cronbach's α 係数を算出したところ、「大学生用リスクティキング尺度（小塩 2001）」と「Rosenberg 自尊感情尺度日本語版（Mimura et al. 2007）」とともに Cronbach's α 係数は 0.8 以上と高い信頼性が得られた（表7）。

SSAS 合計得点および下位尺度と「Rosenberg 自尊感情尺度日本語版（Mimura et al. 2007）」との相関分析の結果、相関は認められなかった。同様に、「大学生用リスクティキング尺度（小塩 2001）」においても、個人的リスク行動尺度および社会的リスク行動尺度ともに相関は認められなかった（表8）。

2) 構成概念妥当性

SSAS 合計得点および下位尺度と性交経験の有無との関連を分析したところ、有意な関連が確認でき、性交経験を有する者の得点が高いことが明らかとなった（表9）。

IV. 考察

1. 対象者の特徴

本研究は、青年期の SSAS の開発であることから、18～24歳に該当する若者としており、対象者の選定にあたっては、18歳人口の約 67.5% が高等教育機関に所属していることから（総務省 2017）、高等教育機関に所属する 18～24歳の若者を対象とした。

学校保健安全法により、専門学校や大学など高等教育機関においても保健室の設置が義務付けされ（川村 2016）、学生にとって健康相談や保健指導を受けられる環境が整っている。これは、身体的な健康に限らず性的健康においても同様である。また、大学生や専門学生は、卒業後の将来についても意識することが考えられ、性感染症や妊娠といった将来

に影響する性行動には慎重である可能性が考えらえる。実際に、本研究の結果、妊娠した経験を有する者は 2.2% であり、性感染症罹患経験者は 4.7% であったことから、性的にローリスクな集団であるといえる。このような環境や状況下で生活する若者に調査したことや、本研究の調査対象者が首都圏の高等教育機関であったことによる地域差が性の自己評価に影響を及ぼした可能性は少なくないと考える。

また、回収数も計画より少なかったことや、全国的な調査に至らなかつたことから、尺度項目数や地域によるバイアスがかからないよう、サンプル数の確保や全国から回収が見込まれる調査方法を検討する必要がある。

2. SSAS 原版の信頼性の検討

SSAS 尺度全体および「近接性」、「官能性」、「親愛性」の 3 つの下位尺度の Cronbach's α 係数は、0.7 以上と概ね信頼性が確保できたが、「生殖性」は 0.67 と 0.7 を下回り、まとまりの悪い数値となった。

一般的に、信頼性係数を高めるためには、相互に相関の高い尺度項目を選定することや項目数を増やすという 2 通りの考え方がある（宮本ら 2019）。「生殖性」の下位尺度は 6 項目から構成されているため、信頼性係数が低くなるほど項目数とはいえず、尺度内容に問題があると考えられる。「生殖性」の尺度項目は、探索的因子分析によって仮説概念の「同一性」と「生殖性」が混在した項目で生成された。そのため、相互に関係性の強い内容の項目とはいえない可能性があり、整合性が低い下位尺度になり得たと考える。

以上のことから、「生殖性」として構成された 6 項目の尺度項目の内容や表現の見直しを行い、内的整合性が高められるように修正を図る必要がある。

3. SSAS 原版の妥当性の検討

1) 基準関連妥当性の検討

SSAS 合計得点および下位尺度と 2 つの外的基準尺度との相関分析の結果、相関は認められず、基準関連妥当性は確保されなかった。

相関が認められなかった要因として、本研究の対象者は、性感染症罹患経験者や妊娠の経験を有する者が少なく、性的にローリスクな集団であったことが考えられる。若者の性行動経験率は、2017 年で男子大学生 47.0%、女子大学生 36.7% であるのに対し、2011 年では男子大学生 53.7%、女子大学生 46.0% と減少傾向（日本性教育協会 2019）であることから、リスクイーな要因と関連を示す外的基準尺度を設定するのではなく、対

象となる集団の特性を捉え、性的傾向を包括した外的基準尺度を検討し、新たに設定する必要がある。

2) 構成概念妥当性の検討

SSAS 合計得点および下位尺度と性交経験の関連を確認した結果、SSAS 合計得点および下位尺度と性交経験との間に、有意な関連が確認でき、性交経験を有する者は SSAS 合計得点および下位尺度が高いことが明らかとなった。

一方で、探索的因子分析の結果、5つの下位概念が、4つの因子構造となった。新たな「官能性」は、仮説概念の「官能性」と「セクシャライゼーション」が集約された概念となり、仮説概念の「官能性」と「親密性」、「セクシャライゼーション」の一部から新たに「近接性」が生成された。また、仮説概念の「同一性」の一部が新たな「生殖性」の概念に集約され、仮説概念の「親密性」は、尺度項目の一部が削除され、残った尺度項目の意味内容から「親愛性」と命名した。このため、修正版を作成するにあたり、新たな概念と集約された項目の意味内容から、尺度を洗練していく必要がある。さらに、因子間相関では「官能性」と「親愛性」において相関係数が 0.28 と低く、相関がみられなかった。因子間相関は、因子同士が影響しあっているかどうかを示す値であり、相関が低い場合は、まったく違った概念の因子だと考えて解釈する必要がある(松尾ら 2002, 中村 2007)ため、「官能性」と「親愛性」の尺度項目を検討する必要がある。

以上から、修正版を作成するにあたり、探索的因子分析で構成された概念と尺度内容、また対象の特徴を鑑みて、尺度項目の洗練や外的基準尺度を検討する必要が考えらえる。

第3章 SSAS 修正版の作成と信頼性・妥当性の検証

I. 研究目的

本研究の目的は、第2章の結果を勘案し、SSAS 修正版の作成と信頼性・妥当性を検証することである。

II. 研究方法

1. 研究デザイン

無記名自記式 Web 調査による横断研究

2. 性の自己評価の概念および尺度項目の修正

1) SSAS の概念の修正

第2章の結果から、4 概念に集約されたそれぞれの尺度項目を見直し、検討を行った。

・官能性

「官能性」は、仮説概念の「官能性」と「セクシャライゼーション」の一部から構成されており、肉体的な快楽や五感からの刺激による快楽、性的欲求の解放に関する項目のほか、それらを得るために手段に関する「取り引き」や「パワー」など「セクシャライゼーション」の要素が含まれている。これらのことから、「自己の身体的な性的快楽の心地良さの受け入れやそれらを得るために手段に対する考え方」と定義した(Advocates for Youth 1995, Bass 2016, Dailey 1981・2017, Goldfarb 2011)。

・近接性

「近接性」は、仮説概念の「官能性」3 項目と、「親密性」と「セクシャライゼーション」各 1 項目の計 5 項目から構成されており、集約された尺度項目から、物理的な距離感が近いことによって得られる感情や快感であることがわかる。これらのことから、「物理的な距離感の近さから得られる心地良さに対する考え方」と定義した(Advocates for Youth 1995, Bass 2016, Dailey 1981・2017, Goldfarb 2011)。

・生殖性

「生殖性」は、仮説概念の「同一性」2 項目と「生殖性」4 項目の計 6 項目から構成されている。自己の身体的な性別に満足と好みのタイプの性を理解することは、妊娠性に関わる大事な要素であると考える。また、他の 4 項目もリプロダクティブヘルス・ライ

ツに関する内容であると解釈できることから、「自己の性の満足と性指向の理解および妊娠性に関する自己期待を含む考え」と定義した(Advocates for Youth 1995, Bass 2016, Dailey 1981・2017, Goldfarb 2011)。

・親愛性

「親愛性」は、仮説概念の「親密性」4項目から構成されており、自分から他人（相手）に対する親しみや愛情の深さやそれを表現する方法、そのために他人（相手）との距離を縮めるための自己開示であると考えることができる。Sternberg(1986)の愛情の三角理論(Triangular Theory of Love)によると、〔愛情〕は①情熱、②親密性、③コミットメントを頂点とする三角形で表現され、この頂点の強弱によって様々な愛情が表現されると言われている（金政ら 2003, 古村ら 2013, Sternberg 1986）。Sternberg(1986)の理論と構成された尺度項目を勘案すると、「親愛性」の方がより尺度項目の意味内容が表現されていると考えた（金政ら 2003, 古村ら 2013, Sternberg 1986）。これらのことから勘案して、「他人への愛情に伴う喜びや憂いとその表現や他人との距離を縮めるための自己開示における考え方」と定義した(Advocates for Youth 1995, Bass 2016, Dailey 1981・2017, Goldfarb 2011, 金政ら 2003, 古村ら 2013, Sternberg 1986)。

2) 尺度項目の作成

(1) 尺度項目の追加と修正

第2章の探索的因子分析の結果から、下位尺度を構成する尺度項目が少ない「官能性」と「親愛性」に焦点を当て、追加項目の作成を検討した。「官能性」および「親愛性」に集約された尺度項目の意味内容や、探索的因子分析で削除された項目のうち、因子負荷量が0.40に近い尺度項目、項目分析の結果を勘案して再検討した（表10）。

・官能性

探索的因子分析の結果、「45. 私は、自身のメリットのために引き換えとして行う性交（セックス）は容認できる（0.40）」、「42. 私は、性に関してインターネットの影響を受ける（0.33）」が因子負荷量において基準値を満たさなかったため削除した。そのため、意味内容を生かし表現を修正して尺度項目を追加した(5 Circles of Sexuality 2019, AYLPE 1995, Goldfarb 2011, HANDOUT 2.1 2021)。また、除外された項目の中から、仮説概念の「官能性」と「セクシャライゼーション」の定義を反映した項目で、かつ基準値により近い項目を見直し、『7. 私は、自身の性欲が抑えられないと、誰とでも性交

（セックス）がしたいと思う』の表現を修正し追加項目として設定した(5 Circles of Sexuality 2019, AYLPE 1995, Goldfarb 2011, HANDOUT 2.1 2021)。

・親愛性

項目分析で除外基準に該当しなかった「18. 私は、人との心の距離感の近さで幸せを感じる」を活かし、「17. 私は、性的な関係を持たなくても人と親密な関係でいられる」は、項目分析で除外基準に該当した項目であるが、尺度項目として設定した意図を汲み、表現の修正を行い追加項目として設定した。さらに、「親愛性」は「2つの当事者間の相互依存の程度 (Feng et al. 2021)」や「親しみ愛すること。人に親しさを感じ、愛情をいだいていること (広辞苑 2008)」と示されており、「人に対する関心や愛情」、「相手のために手を貸すことで得られる無償の喜び」を反映した「私は、困っている人を見ると放っておけない」を追加した(5 Circles of Sexuality 2019, AYLPE 1995, Goldfarb 2011, HANDOUT 2.1 2021)。

（2）内容妥当性

母性看護学・助産学領域 5 名の有識者にスーパーバイズを求め、尺度項目について検討した。抽象度の高い表現を具体化し、ワーディングを修正し誤解のない表現とした。12 項目の表現等の修正を行い、4 概念 25 項目の尺度とした。

（3）表面妥当性

対象年齢に該当する 5 名ヒアリングを実施し、研究者と解釈に齟齬がみられた項目など 12 項目の修正を行った。

最終的に 4 概念 25 項目から構成される尺度とした（表 11）。

3. 性の自己評価の概念枠組み

第 2 章の結果から、性の自己評価における性は、「近接性」、「官能性」、「親愛性」、「生殖性」の構成概念で成り立つことが確認された。また、当初の外的基準として設定していた「リスクテイキング行動尺度」、「自尊感情尺度」は、SSAS との相関がみられなかったこと、さらに対象者の特性を勘案し、新たな外的基準として、「性的自己意識尺度（草野 2007）」、「性的リスク対処意識尺度（草野 2007）」を基準関連妥当性の検証に用いることにした（図 2）。草野（2007）は、両尺度を作成するにあたり、心理学的分野の先行研究から、「性的自己意識」を①自己の性機能や生殖性や身体像など性的存在としての認知、②自己の性的成熟性や性行動に対する感じ方、「性的リスク対処意識」を①性的関係におけるリ

スクを避けるための適切な行動がとれる自己管理能力の認知、②相手と親密な関係を形成しコミュニケーションをとることのできる性的対人関係能力に関する自信と定義している。また、大学生において性交経験をもっている者は、性的自己意識および性的リスク対処意識のいずれの得点も高いことを明らかにしている（草野 2007）。以上のことから、草野（2007）の尺度は、その定義や性交経験との関連から SSAS の外的基準として適當であると判断し、性交経験や性欲の程度との関連からも妥当性を検討する（草野 2007）。

4. 調査方法

無記名自記式質問紙調査（オンラインによる Web 調査）

5. データ収集期間

2021 年 10 月～2021 年 11 月

6. 対象者

COVID-19 の制限下での研究であり、データの収集が困難であるため、本研究の対象者は、インターネット調査専門会社（以下、A 社）に登録している日本国内の高等教育機関（大学・短大・専門学校）に所属する 18～24 歳の男女 500 名とした。

A 社の登録者という偏りはあるが、A 社のパネルは、日本のインターネット利用人口の構成にほぼ近い形になっているため、標本の代表性が全く無いということではない。また、A 社は、選択肢の並びをランダムにするなど不正回答防止に取り組んでおり、定期的な属性チェックにて成りすましパネルの排除を行うなどパネルの信頼性を担保している。さらに、年間 300 件以上の学術案件の実績があり、大阪大学・九州大学・京都大学・慶應義塾大学など多数の研究機関が利用していることから、パネルの信頼性が十分であると判断し、委託することとした。

以上から、本研究の対象者は、A 社に登録している日本国内の高等教育機関（大学・短大・専門学校）に所属する 18～24 歳の男女 500 名とした。

7. データ収集方法

A 社の担当者に調査協力依頼書（様式 4）および調査フォーム（様式 5）の内容を説明し、契約した後に A 社に登録しているパネルへ調査フォームの配布を依頼した。調査フォ

ーム冒頭には、調査協力依頼書（様式4）の文面を掲示し、画面の下方に「同意」ボタンを設置し、同意する者は「同意」ボタンをクリックすることによって参加の同意とし、回答をもって同意とみなした。調査は、配布してから約2～3日を締め切りとした。

8. 調査項目（様式5）

1) 個人属性（性別、年齢、パートナーの有無等）

先行研究より、性交経験や性欲の程度など性に関する11項目を設定した。

2) SSAS 修正版尺度項目

4概念25項目について、4件法のリッカートスケールで尋ねた。

3) 大学生の性的自己意識尺度

「性的自己意識尺度（草野 2007）」は、15項目4件法で設定されており、Cronbachの α 係数は、0.86と高い内的整合性が担保された尺度である（草野 2007）。なお、本尺度の使用は、原著者から使用許諾を得ている。

4) 性的リスク対処意識尺度

「性的リスク対処意識尺度（草野 2007）」は、18項目4件法で設定されており、Cronbachの α 係数は、0.87と信頼性が高い尺度である（草野 2007）。なお、本尺度の使用は、原著者から使用許諾を得ている。

9. 分析方法

1) 記述統計量の算出

調査項目の全項目の記述統計量を算出し実態を把握した。

2) SSAS 修正版尺度の項目分析

尺度項目の25項目について、質問項目ごとに回答割合や正規分布をなすか確認し、平均値と標準偏差を算出した。平均値と標準偏差の値から、天井効果・フロア効果（平均±1SD）を示す項目がないかを確認した。次に、項目の重複を避けるために、Spearmanの順位相関分析を用いて項目間相関係数を算出した。相関係数が0.7以上の場合、それらの項目の内容が非常に類似しているため、一方の項目を除外することとした。また、各項目の弁別力を検証するために、尺度全25項目の下位尺度合計得点について、四分位法により上位群、下位群に分け、各項目得点の平均値をt検定によって比較し、有意差がない項目を除外することとした（G-P分析）。さらに、内的整合性を検証するため、

Spearman の順位相関分析を用いて尺度の各項目得点と当該項目を除く合計得点における相関係数を確認し、相関係数が 0.3 を満たさない項目を除外することとした（I-T 相関）。なお、相関分析における相関係数の基準は、第 2 章と同様に、内田ら（2015）の数値を参考に検討した（内田ら 2015）。

3) 探索的因子分析

探索的因子分析を実施するにあたり、適合度を確認するため、KOM 測度（Kaiser-Meyer-Olkin Measure of Sampling Adequacy）の算出およびバートレットの球面性検定（Bartlett test of sphericity）を実施した。KOM 測度は、すべての独立変数間の偏相関係数の 2 乗和が相関係数の 2 乗和に比べて小さい時、1 に近づくとされ、偏相関係数が大きいということは独立変数間の関与が小さいことを意味する（対馬 2020）。KOM 測度を判断する基準として、対馬（2020）の KOM 測度の判定基準を用いて検討した（対馬 2020）。

上記の手続きにより、適合度に問題が無いことを確認し、探索的因子分析を実施した。固有値が 1.00 未満であり因子負荷量が 0.40 以上であることを条件に下位尺度の構成を確認し、因子名を検討した。

4) 尺度の信頼性の検討

尺度および外的基準尺度について内的整合性を確認するため、Cronbach's α 係数を算出した。また、奇数群・偶数群の 2 群に分けた折半法にて、Spearman-Brown の公式により信頼性係数を算出し、内的整合性を検討した（村上 2017）。

5) 尺度の妥当性の検討

基準関連妥当性は、第 2 章の結果を勘案して、外的基準尺度に草野（2007）の「性的自己意識尺度」と「性的リスク対処意識尺度」を用いて検討することにした（草野 2007）。SSAS の合計得点および下位尺度と「性的自己意識尺度」と「性的リスク対処意識尺度」の Spearman の順位相関分析を用いて相関係数を算出した。

構成概念妥当性の検討は、SSAS の合計得点および下位尺度と「性交経験」および「性欲の程度」との関連を確認した。

分析は、IBM SPSS Statistics version28 を用いて実施した（両側検定、有意水準 5%）。

10. 倫理的配慮

本研究は、東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会の承認を得て実施した（院 33 – 45B）。

調査協力は、自由意思であること、匿名性を保証すること、データは本研究の目的以外に使用しないこと、調査フォームの送信をもって調査に同意したとみなすこととし、回答中に精神的な苦痛を感じた場合は、いつでも中断できること、性に関する臨床心理士を紹介すること等を調査協力依頼文書に明記した。

III. 結果

1. 配布と回収の状況

大学群（大学・短期大学）と専門学校群の割合が 4 : 1 かつ各群の男女比が 1 : 1 となるよう A 社に依頼したところ、大学群は男性 200 名、女性 200 名から回答が得られ、1 : 1 の割合で計 400 名の回収が得られた。一方、専門学校群は男性 39 名、女性 50 名から回答が得られたが、専門学校群の男性回収目標数に届かなかったため、合計の男女比に偏りがみられる。そのため、大学群の男性に追加募集を依頼し 11 名の回答を得た。

最終的な回収は、500 名の回答が得られ（回収率 100%）、修正版の無回答を確認し全てを分析対象とした（有効回答率 100%）。

2. 対象者の属性

対象者の属性を表 12 に示す。

所属は、「大学：403 名」が最も多く全体の 8 割を占め、専攻は、「文系：272 名」が最も多かった。平均年齢は、20.48 (± 1.45) 歳であり、パートナーの有無では、「いない：362 名」と 7 割が有していなかった。性交経験の有無では、「経験なし：309 名」と 6 割を占め、性欲の程度で最も多くみられたのは、「やや強い：191 名」で次いで「やや弱い：175 名」であった。

3. 項目分析

項目分析の結果を表 13 に示す。

1) 天井効果とフロアーエffect

全尺度項目のうち、天井効果 (> 4.0) が認められた項目はなかった。また、フロアーエffect (< 1.0) は、4 項目 (No.7, 9, 10, 11) で認められた。

2) I-T 相関

Spearman の順位相関分析を実施した結果、1 項目 (No.17) のみ相関係数が 0.3 以下であった。

3) G-P 分析

尺度の合計得点から下位群 ($n = 140$ 、25% : 52 点以下)、上位群 ($n = 132$ 、75% : 66 点以上) を抽出し、G-P 分析を行った結果、全ての項目で 2 群間に有意差が認められた。

4) 項目間相関

Spearman の順位相関分析を実施したところ、相関係数 0.7 以上の組み合わせはみられなかった。

5) 項目内容の解釈

「官能性」の No.7, 9, 10, 11 でフロアーエffect がみられた。しかし、No.7, 9, 10 は基準値より若干下回った数値であり、No.7, 10 は、第 2 章の項目分析において基準値を満たした項目である。No.9 は、No.7, 10 よりもフロアーエffect の基準値により近い数値であるため、これら 3 項目は除外せず、No.11 のみを削除した。「親愛性」では、No.17 が I-T 相関において基準値を満たさなかったため削除した。

以上より、2 項目を除外することとした。

4. 探索的因子分析

項目分析で検討した 23 項目について探索的因子分析を実施することとした。分析を実施するにあたり、23 項目の独立変数の KOM 測度（カイザー・マイヤー・オルキンの標本妥当性）およびバートレットの球面性検定を行った結果、KOM 値は、0.901 であり KOM 測度の判定基準を満たしていた（対馬, 2020）。また、バートレットの球面性検定では、有意差が認められ、変数間に相関があることが確認された。これらのことから、探索的因子分析の適用が確認でき、23 項目について探索的因子分析（最尤法・回転なし）を実施した。

最尤法は一般的に推奨される手法（対馬 2020）であるが、データが正規性を示していないかったため、因子抽出法を検討したところ、最尤法は、非正規であっても共通性の推定が 1 を超える不適解がみられなければ問題はないとの見解もあり（山口ら 1990）、最尤法を用いて因子負荷量を推定した。共通性の推定が 1 を超える不適解はみられず、固有値およびスクリープロットから因子数を 4 と仮定した最尤法・プロマックス回転の因子分析を実施した。いずれの因子負荷量も 0.40 未満である項目（No. 1）を除外し、再度、因子数 4 とした因子分析を実施した。その結果、22 項目 4 因子構造からなる尺度となった。最終的な因子分析の結果を表 14 に示す。

1) 因子名の確認

第 1 因子は、7 項目から構成され「性欲を満たすために性交（セックス）を迫る傾向がある」、「アダルトサイト等の画像や動画と同じような性交（セックス）がしたい」などの項目から、肉体的な性的快感を求める内容を表していると解釈し、現状の「官能性」が因子名として妥当であると判断した。

第 2 因子は、5 項目から構成され「人に対して思いやりが深い」、「人に対して愛情が深い」などの項目から、人や相手に対して親しみや情の深さを表した内容と解釈し、現状の「親愛性」が因子名として妥当であると判断した。

第 3 因子は、5 項目から構成され「人との身体的な距離感が近いほど幸せを感じる」、「人前で行える程度の「手を繋ぐ」「腕を組む」等のスキンシップを求める」などの項目から、人との物理的距離間の近さを表した内容と解釈し、現状の「近接性」が因子名として妥当であると判断した。

第 4 因子は、5 項目から構成され「年を重ねると妊娠しにくくなることを知っている」、「不妊症にならない生活（非喫煙・性感染症予防等）について関心がある」などの項目から、リプロダクティブ・ヘルスについてあらわした内容と解釈し、現状の「生殖性」が因子名として妥当であると判断した。

2) 因子間相関

第 1 因子「官能性」との相関は、第 3 因子「近接性」($rs=0.55$)、第 4 因子「生殖性」($rs=0.52$) と中程度の正の相関がみられ、第 2 因子「親愛性」($rs=0.39$) とは弱い正の相関がみられた。

第 2 因子「親愛性」は、第 1 因子「官能性」と弱い正の相関にあったが、第 3 因子「近接性」($rs=0.54$) および第 4 因子「生殖性」($rs=0.60$) と中程度の相関がみられた。

第3因子「近接性」との相関は、第1因子「官能性」と第2因子「親愛性」とは中程度の正の相関がみられ、第4因子「生殖性」($rs=0.54$)とも中程度の正の相関がみられた。

5. 尺度の信頼性の検証

1) 生成された尺度の Cronbach's α 係数

尺度全体および因子ごとの Cronbach's α 係数を算出し、内的整合性について検討したところ、尺度全体の Cronbach's α 係数は 0.91、「官能性」は 0.85、「親愛性」は 0.82、「近接性」は 0.87 と 0.8 を超えており、「生殖性」は 0.8 を上回らなかったが 0.76 と 0.7 を超える数値が得られた（表 15）。

2) 折半法による内的整合性

折半法による信頼性係数を算出するため、修正版の 22 項目を奇数群（No.3, 5, 7, 9, 13, 15, 19, 21, 23, 24, 25）11 項目と偶数群（No.2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22）11 項目の 2 群に分け、Pearson の相関係数を求め、Spearman-Brown の公式により信頼性係数を算出し、内的整合性を検討した。

分析の結果、奇数群と偶数群の Pearson の相関係数は、 $r = 0.876$ ($p < .001$) であった。Spearman-Brown の公式に当てはめ、信頼性係数を算出したところ以下の通りになった（村上 2017）。

$$2 \times r / 1 + r (2 - 1) = 2 \times 0.876 / 1 + 0.876 = 1.752 / 1.876 = 0.934$$

従って、折半法による信頼性係数は 0.934 であることが明らかとなり、高い信頼性係数が得られた。

6. 尺度の妥当性の検証

1) 基準関連妥当性

2 つの外的基準尺度の Cronbach's α 係数を算出したところ、「性的自己意識尺度（草野 2007）」および「性的リスク対処意識尺度（草野 2007）」ともに 0.8 以上と高い信頼性が得られた（表 15）。

修正版および下位尺度と「性的自己意識尺度（草野 2007）」との Spearman の順位相関分析の結果、修正版 ($rs=0.68$)、「官能性」 ($rs=0.61$)、「生殖性」 ($rs=0.53$) と中程度の正の相関が認められ、「親愛性」 ($rs=0.46$)、「近接性」 ($rs=0.45$) と弱い正の相関が認められた。同様に、「性的リスク対処意識尺度（草野 2007）」においても、修正版 ($rs=0.53$)、「生殖性」 ($rs=0.62$) と中程度の正の相関が認められ、「官能性」 ($rs=0.35$)、「親愛性」 ($rs=0.47$)、「近接性」 ($rs=0.37$) と弱い正の相関が認められた（表 16）。

2) 構成概念妥当性

修正版および下位尺度と「性交経験」、「性欲の程度」との関連をみるにあたり、修正版の記述統計量を算出したところ、22~88 点の範囲にあり、平均値は 51.8 (± 10.88) 点であったが、Shapiro-Wilk 検定では正規性が確認されなかった。そのため、「性交経験」との関連では Mann-Whitney U test を、「性欲の程度」との関連では Kruskal-Wallis test を実施した。その結果、「性交経験」、「性欲の程度」両者ともに、修正版と下位尺度すべてに有意差が認められた（表 17、表 18）。

IV. 考察

1. 対象者の特徴

調査対象者は、インターネット調査会社に登録している 18~24 歳の高等教育機関に在籍する学生 500 名であった。1 回目の調査同様、標本の代表性が担保されるよう大学群と専門学校群で 4 : 1 の割合、かつ男女比が 1 : 1 となるよう調査を進め、概ね計画通りの回収数が得られた。

本研究における性交経験を有する者は、191 名であり、全体の 38.2% に過ぎなかった。日本性教育協会（2019）による青少年の性行動経験率の調査において、大学生の性行動経験率は年々減少傾向であることが明らかとなっている（日本性教育協会 2019）。本研究の調査においても、性交経験の未経験者は 6 割以上を占めたことから、同様の傾向であるといえる。若者を対象とした性に関する研究の多くは、大学生や短期大学生など高等教育機関に所属する若者である（原口ら 2019, 高坂 2018, 草野 2007）が、現代の若者の性は、性感染症や人工妊娠中絶数の増加（厚生労働省 2020）の一方で、性行動経験率の減少（日本性教育協会 2019）といった 2 極化した側面がみられている。本研究の結果からも、高等教育機関に所属する若者は、後者の集団と捉えることができ、個人が帰属する環境によ

って性的傾向に差が生じることが推察され、前者の性行動が活発化した若者を含めた場合、SSAS の構成概念に影響を及ぼす可能性は十分に考えられる。

若者の性行動が希薄化している要因として、若者の性行動や恋愛に対する考え方や価値観が変化しており（高坂 2018）、その要因としてリアルな空間における対人関係スキルが成熟していないことが考えられる。「パートナー（恋人）に対する考え方」について尋ねたところ、「パートナーがいなくても（1人でも）良い」と回答した者は全体の 40.2% という結果であった。また、少数ではあるが「パートナーはバーチャル（2次元）でも良い」と回答した者も 2.8% でみられており、リアルな空間における対人関係の構築を苦手としているようにも考えられる。そのことは、本研究の 1 回目の調査の、スマートフォンの利用時間の回答からも推察される。これらのことから、若者における対人関係構築の主要な手段としてスマートフォンや SNS があり、相手を傷つけるリスクの回避や互いの距離感が保たれることによって良好な対人関係が構築されていると考えられる。しかしながら、SNS などを通じて良好な対人関係が構築されても、性的場面においてはそう簡単にはいかない。互いに良好な性的コミュニケーションを図るためにには、リアルな空間における対人関係能力が求められ、日常における対話や人との関り方など対人関係能力を高める支援の必要性が示唆された。

2. SSAS 修正版の信頼性

第 2 章における原版の Cronbach's α 係数は、尺度全体および「生殖性」を除いた 3 つの下位尺度で 0.7 以上が得られたが、「生殖性」のみ 0.67 と基準値を満たさなかった。この要因として、「生殖性」を構成している項目の表現の抽象度の高さや項目同士の関連の弱さなどが影響している可能性があると考え、修正版を作成するにあたり、尺度項目の内容妥当性と表面妥当性の検討を重点的に行った。実際にヒアリングを行ったところ、「生殖性」の尺度項目が意図する内容と回答者側には齟齬が生じている項目が多く見られ、尺度全体で 12 項目の修正が行われた。その結果、尺度全体の Cronbach's α 係数は 0.91 と高まり、「生殖性」以外の 3 つの下位尺度も 0.8 以上の高い数値が得られたが、「生殖性」は 0.76 と基準値は満たしているものの、一般的に望ましいとされる 0.8 には届かない値となった。

「生殖性」は仮説概念の「同一性」と「生殖性」が集約された下位尺度であり、尺度項目の意味内容から新たに定義を見直し、尺度項目の表現の修正を図ったが、「生殖性」の意図する表現の修正に至らなかった可能性がある。このため、「生殖性」の信頼性を高めるた

めには、「生殖性」の概念として「性同一性」や「性指向」が意味することを丁寧に汲み取りながら、表現の修正を検討する必要がある。

とはいっても、折半法における信頼関係係数は 0.93 と高い数値であり、Cronbach's α 係数も全体的に高まったことから、修正版および下位尺度の内的整合性は確保できたと考える。

3. SSAS 修正版の妥当性

第 2 章における調査結果から、生成された 4 つの概念とその内容、また対象者の特徴を勘案し、外的基準尺度の検討を行った。調査対象者の属性から、性的にローリスクな集団であったことを受け、2 つの尺度（「性的自己意識尺度」「性的リスク対処意識尺度」）が本尺度の外的基準として合致していると考えた（草野 2007）。両尺度の定義と、両尺度が性交経験と関連がみられたことから SSAS の外的基準として適当であると判断した（草野 2007）。これら 2 つの外的基準尺度を用いたところ、SSAS は 2 つの尺度と中程度および弱い正の相関が確認でき、基準関連妥当性が確保された。因子間相関では、「官能性」と「親愛性」は 0.39 ではあるものの、それ以外はすべて中程度の正の相関が確認できていること、「性交経験」および「性欲の程度」とも有意な関連がみられたことを受け、SSAS の構成概念は確保できたと考える。

第4章 結語

I. 3つの性の概念

本研究は、諸外国の包括的性教育で活用されている「The Circles of Sexuality (Dailey 1981・2017)」における5つの理論的概念を仮説概念として尺度開発を行った。本研究の結果、「官能性」、「親密性」、「同一性」、「生殖性」、「セクシャライゼーション」の5つの仮説概念は、「同一性」および「セクシャライゼーション」が削除され、新たに「近接性」の概念が生成され、「官能性」、「親愛性」、「近接性」、「生殖性」の4つの構成概念となった。

この要因として、セクシュアリティは、文化・社会的背景により変化する (Dailey 1981・2017) といわれていることから、わが国における若者の特性や社会的背景に拠ったものであると考えられる。仮説概念の「同一性」の尺度項目のうち、分析過程で削除されたその多くが〔性役割〕や〔性的マイノリティ〕に該当する項目だった。若者にとって性役割を相手に望んでいないことやセクシャルマイノリティへの受け入れは当然である考えであることが推察される。新たな「生殖性」は、仮説概念の「同一性」で設定した2項目のほか、仮説概念の「生殖性」の4項目から構成された。また、仮説概念の「生殖性」で削除された項目は、〔避妊行動〕や〔妊娠の方法〕、〔DINKs〕や〔生殖の権利〕に関する項目である。前者の〔避妊行動〕や〔妊娠の方法〕は、義務教育時代に受けていた性教育による教育効果であると考えることができ、後者の〔DINKs〕や〔生殖の権利〕は、現代社会の多種多様な生き方や考え方若者にも浸透していることが推察される。

また、わが国の性の3側面は、文献によって様々であるが、生殖性は「種の保存のための性」、「子孫繁栄」、快楽性は「快楽を目的とした性」、「お互いの歓びを分かち合う」、連帶性は「互いの愛情に基づく結びつきを求めるための性」、「互いの心の絆を強める」と定義されている (青木ら 2003, 大嶋ら 2016, リプロ・ヘルス情報センター 2013)。わが国の性の3側面と本研究の結果から得られた4つの概念を比較すると、「官能性」はその定義から、3側面における「快楽性」に類似することが推察される。同様に、「生殖性」は3側面における「生殖性」と、「親愛性」は3側面における「連帶性」に類似することが推察される。一方で、「近接性」の定義は、「物理的な距離感の近さから得られる心地良さに対する考え方」としており、用語の定義と類似する3側面は見当たらない。しかし、「近接性」の尺度項目をみると、「人にも自分と同じくらいの愛情を求めてしまう」、「人との心の距離感の近さで幸せを感じる」は、3側面の「連帶性」に類似している印象を受け、また「人前で

行える程度の「手を繋ぐ」「腕を組む」等のスキンシップを求める、「スキンシップ以上のイチャイチャを好む」、「人との身体的な距離感が近いほど幸せを感じる」は、性行動の加速からセクシャル・コンタクトに繋がる可能性があり、「快楽性」に結びつくことが考えられる。一般的に、性交に至るには「手をつなぐこと」や「キスをすること」などの順序立てたプロセスが踏まれるため、「近接性」は「快楽性」に繋がる概念であることがわかる。

これらのことから、本研究における「近接性」は、肉体的な快楽ではなくその近さで得られる喜びではあるが、性行動が加速し、一線を越えてしまうと3側面の「快楽性」に繋がる新しい概念であることが考えられ、[一線]という曖昧で際どい要素を含んだ「近接性」の概念は、現代の若者に対して教授すべき性教育の新概念ともなり得ることが考えられる(図3)。

II. SSAS の特徴

SSAS は、「官能性」、「近接性」、「親愛性」、「生殖性」の4つの下位尺度からなる多次元尺度である。各下位尺度の特性は以下の通りである。

・官能性

「官能性」を構成する尺度項目を確認すると、「自分の性欲は性交（セックス）で満たされる（と思う）」や「性欲を満たすために性交（セックス）を迫る傾向がある」など、身体的・肉体的な喜びを相互的に共有することではなく、一方向の身体的・肉体的な喜びの受け入れやそれを得るために手段であることが窺える。「官能性」は個人の身体的・肉体的な快楽の性の概念と考えることができる。

・近接性

「近接性」を構成する尺度項目を確認すると、「人にも自分と同じくらいの愛情を求めてしまう」、「人との心の距離感の近さで幸せを感じる」といったパーソナルスペースの考え方による「近さ」から得られる喜びと、「人前で行える程度の「手を繋ぐ」「腕を組む」等のスキンシップを求める」、「スキンシップ以上のイチャイチャを好む」といった実際に人が存在して成り立つ「近さ」によって得られる喜びの2つに大別されることが考えられる。両者とも、その相手との「近さ」によって得られる個人の喜びであることから、「近接性」は相手が存在することによって得られる喜びの性の概念と考えられる。

・親愛性

「親愛性」を構成する尺度項目を確認すると、「人に対して思いやりが深い」、「人に対して愛情が深い」など、相手に向けた自己の一方による感情と捉えることができる。また、人への「思いやり」や「愛情」の喜びの裏面には、「感情的なリスク」や「脆弱」といった側面もあるため、喜びだけでなく憂いも伴うことを念頭に置く必要があると考える(Dailey 1981・2017)。「親愛性」は、個人が相手に向けた愛情とそれに伴う脆弱性を含んだ性の概念と考えられる。

・生殖性

「生殖性」は、「年を重ねると妊娠しにくくなることを知っている」、「不妊症にならない生活（非喫煙・性感染症予防等）について関心がある」など個人のリプロダクティブヘルス・ライツに関する内容が含まれている。また、「性同一性」や「性指向」の内容は、自己の性に対する満足や性指向の理解が不十分であると、子をつくり、子を産むという妊孕性に影響することができる。そのため、「生殖性」は、個人の自己の性の理解と妊孕性に向けた性の概念と考えられる。

III. SSAS の実践への活用

1. SSAS の評価方法

SSAS は、4つの性の概念のうち、それぞれの得点から SSAS の下位尺度が示す得点によって、自己の性的傾向を包括的に評価することができると言える。SSAS の合計得点は 22 ~ 88 点、「官能性」は 7 ~ 28 点、「近接性」、「生殖性」、「親密性」はそれぞれ 5 ~ 20 点の範囲をとるが、尺度項目の意味内容から、得点の高低で善し悪しを評価するものではない。また、尺度全体の得点が高いからといって優劣を評価するものではなく、4つの概念の特徴を考慮しながら性的傾向を評価するツールとして活用する。

1) 官能性

「官能性」は、自己の身体的な性的快楽の心地良さの受け入れやそれらを得るために手段に対する考え方を評価するカテゴリーである。単に、身体的・肉体的な快楽に関する評価ではなく、その快楽を得るために手段に対する個人の考えが含まれているため、得点の解釈に留意する必要がある。「官能性」の得点が高い場合には、他の下位尺度得点との比較をしつつ、どのように性的欲求を開放するべきか、自分や相手を大切にした性交とは何かを提示しながら教育や指導することが望まれる。

2) 近接性

「近接性」は、物理的な距離感の近さから得られる心地良さに対する考え方を評価するカテゴリーである。「近接性」の得点が高いということは、物理的な距離感の近さから得られる心地良さに対する考えが強い傾向であるといえ、「官能性」と中程度の正の相関があることから、相手との行き過ぎた距離感に注意喚起することが求められると考える。

3) 親愛性

「親愛性」は、他人への愛情に伴う喜びや憂いとその表現や他人との距離を縮めるための自己開示における考え方を評価するカテゴリーである。「親愛性」の得点が高いということは、他人に対する愛情やその表現が豊かであり、他人との距離を縮めるための自己開示能力を高く評価していると解釈できる。また、「近接性」および「生殖性」と中程度の正の相関があり、尺度項目の特性から、性が関与する場面においては特に注意する必要があると考える。

4) 生殖性

「生殖性」は、自己の性の満足と性指向の理解および妊孕性に関する自己期待を含む考え方を評価するカテゴリーである。「生殖性」の得点が高いということは、自分の性別に満足し性指向の理解もしており、妊孕性に関する自己期待を含む態度や行動が行えていると高く評価していると考えられる。一方、「生殖性」の得点が低いということは、将来の妊孕性に影響することが予測でき、日常生活の過ごし方など提示する必要があると考える。

2. 看護への活用

本尺度は、測定時の自己の性的傾向を評価するものであるため、一時点の得点でその先々まで言及できないと考える。新たな環境や人との出会いによって、性的傾向は変化することが予測できるため、定期的に評価し、その得点に至った背景を振り返ることが重要であると考える。

1) 臨床現場での活用

臨床現場における対象者は、性的傾向がリスキーな状態であることが想定される。泌尿器科・産婦人科・性病科外来、NPO 法人などの性の相談窓口において、SSAS を活用することにより、個人の性の特徴に応じた保健指導に役立てることができると考える。

2) 教育現場での活用

教育現場において、SSAS を活用することにより、自身の身体を知るきっかけとなる。冷えやダイエット、喫煙や体重異常などの生活習慣やストレスが将来の妊孕性に影響すること（上澤ら 2010）を伝えることで、将来の妊娠を見据えた生活習慣の改善につなげることが期待できる。

IV. 本研究の限界と今後の課題

SSAS 全項目の Cronbach's α 係数および折半法における信頼性係数は 0.9 以上を確保していることから内的整合性は十分に保たれている。一方で、下位尺度は一定の信頼性は確保しているものの、「生殖性」が 0.8 を下回ったこと、尺度の安定性の検討まで行えなかつたことが本研究の信頼性における限界である。また、本尺度は 18～24 歳の青年期に該当する若者を対象としているが、高等教育機関に所属する 18～24 歳の男女を調査対象としたこと、調査会社に委託したパネルを利用したことによるサンプリングバイアスがある。若者の性行動が 2 極化している現状を鑑みると、高等教育機関に所属する者とそうでない者とでは性に対する考えに偏りがみられることが想定され、高等教育機関に所属する学生に限局しなかった場合には、尺度の構成概念が変化した可能性が考えられる。さらに、構成概念妥当性を検討するにあたり、探索的因子分析から 4 因子構造であることが確認できたが、因子構造モデルについて確認的因子分析による評価ができなかったことが本研究の妥当性における限界である。

今後は、高等教育機関に所属する学生に限定せず、18～24 歳の層化無作為抽出法により幅広く対象を捉え、サンプリングをより適切に抽出し、尺度の洗練を行うことが必要であると考えらえる。また、因子構造モデルについて確認的因子分析による評価を行い、構成概念の妥当性を高めることが求められる。さらに、下位尺度の項目の洗練を行い、尺度の信頼性を高めることと安定性が担保されるよう、調査を継続する必要がある。性に関する諸問題は、青年期に限ったことではないため、今後はあらゆる世代に活用できる尺度となるよう精選していく必要がある。

V. 結論

本研究は、青年期の自己評価尺度の開発のため、高等教育機関に所属する 18~24 歳を対象に 2 回の調査を実施した。

1 回目の調査は 359 名を分析対象とし、項目分析および探索的因子分析を実施したところ、「官能性」、「近接性」、「生殖性」、「親愛性」の 4 因子構造の 19 項目の尺度が生成された。Cronbach's α 係数は、尺度全体および 3 つの下位尺度で 0.7 以上が得られたものの、1 つの下位尺度で 0.67 と基準値を満たさず、外的基準尺度との関連もみられなかった。

1 回目の調査結果から、尺度項目の内容妥当性と表面妥当性を再検討し、インターネット調査会社に登録している高等教育機関に所属する 18~24 歳 500 名を対象に 2 回目の調査を実施した。項目分析および探索的因子分析を実施した結果、1 回目と同様の 4 因子構造となり、22 項目から構成される尺度が生成された。性交経験と性欲の程度と有意な関連が確認でき、構成概念妥当性は確保できたといえる。また、2 つの外的基準尺度とも相関が中程度および弱い正の相関がみられたことから基準関連妥当性も確保されたと考える。Cronbach's α 係数は、尺度全体で 0.91 かつ 3 つの下位尺度で 0.8 以上が得られ、1 回目の調査で 0.67 であった「生殖性」も 0.76 と基準値を満たしており、折半法による信頼性係数も 0.93 であることから、尺度の内的整合性が確保されたと考える。しかしながら、尺度の安定性は確認できておらず課題が残った。

以上のプロセスから、概ね信頼性と妥当性が確保された青年期の性の自己評価尺度 (SSAS) が開発された。今後は、実用化に向けて、より信頼性と妥当性が支持された精度の高い尺度に洗練していくことが望まれる。

謝辞

本研究を進めるにあたり、COVID-19 状況下にも関わらず、快く調査にご協力いただきました 18～24 歳の高等教育機関に所属する学生の皆様、所属機関の学長および学部長に厚く感謝申し上げます。

また、調査項目の作成およびデータ分析過程においてご助言とご支援をいただきました 東邦大学看護学部准教授 松永佳子先生、宮崎県立看護大学准教授 濱嵜真由美先生、東京医療保健大学准教授 高木晴良先生、調査企画から論文作成において終始温かく、多大なご協力、ご指導、ご助言を賜りました指導教官の齋藤益子先生、大島久二先生に心より感謝申し上げます。さらに、論文をご精読いただき、論文の精錬に丁寧なご助言をいただきました東京医療保健大学大学院教授 竹内朋子先生をはじめ審査員の先生方に深く感謝申し上げます。

最後に、論文作成にあたり、ご支援いただきました東京医療保健大学立川看護学部教職員の皆様、終始温かな声援を送ってくれた家族に心より感謝申し上げます。

引用文献

5 Circles of Sexuality, 検索日 2022.1.21,
(<https://pubertycurriculum.com/wp-content/uploads/2020/07/Circles-of-Sexuality-Diagram-Dennis-Daily-PhD.pdf>)

Adrián Jesús Ricoy-Cano, Esteban Obrero-Gaitán, Francisco Caravaca-Sánchez, Yolanda María De La Fuente-Robles (2020). Factors Conditioning Sexual Behavior in Older Adults: A Systematic Review of Qualitative Studies. *Journal of Clinical Medicine*, 9(6), 1716.

Advocates for Youth, Life Planning Education: A Youth Development Program 1995, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.advocatesforyouth.org/wpcontent/uploads/storage/advfy/documents/lpe.pdf>)

赤嶺依子, 国吉緑, 外間実裕, 小川由英, 與古田孝夫, 石津宏 (2003). 保健学科学生の「高齢者の性」に関する知識と態度の研究：知識・態度の日本語版評価尺度（ASKAS-J）を用いて. 日本性科学会雑誌, 21(1), 12-17.

尼崎光洋, 清水安夫 (2008). 大学生の性感染症予防に対する意識とコンドームの使用との関係 意識尺度の開発と予測性の検討. 日本公衆衛生雑誌, 55(5), 306-317.

Angie M. Miller (2014). An action research study: Developing an HIV risk assessment tool for an aging population. *ProQuest Dissertations Publishing*.

青木康子, 加藤尚美, 平澤美恵子 (2003). 助産学大系第2巻「人間の性・生殖」(第3版). 日本看護協会出版会, 東京.

Bente Træen, Aleksandar Štulhofer, Erick Janssen, Ana Alexandra Carvalheira, Gert Martin Hald, Theis Lange, Cynthia Graham (2019). Sexual Activity and Sexual Satisfaction Among Older Adults in Four European Countries. *Archives of Sexual Behavior*, 48(3), 815-829.

Beth Bourdeau, Joel W. Grube, Melina M. Bersamin, Deborah A. Fisher (2010). The Role of Beliefs in Sexual Behavior of Adolescents: Development and Validation of an Adolescent Sexual Expectancies Scale. *JOURNAL OF RESEARCH ON ADOLESCENCE*, 21(3), 639 – 648.

Brian Houle, Sanyu A. Mojola, Nicole Angotti, Enid Schatz, F. Xavier Gómez Olivé, Samuel J. Clark et al. (2018). SEXUAL BEHAVIOR AND HIV RISK ACROSS THE LIFE COURSE IN RURAL SOUTH AFRICA: TRENDS AND COMPARISONS. *AIDS Care*, 30(11), 1435–1443.

CariYouth Well-being, What does Sexuality Mean to You?, 検索日 2022.1.21,
(<https://cariyouth.wordpress.com/your-sexuality/what-does-sexuality-mean-to-you/>)

Chizu Mimura, Peter Griffiths (2007). A Japanese version of the Rosenberg Self-esteem Scale: translation and equivalence assessment. *Journal of Psychosomatic Research*, 62, 589-594.

Dennis M. Dailey. (1981). Sexual Expressions and Aging. *The Dynamics of aging*, 311-330.

Dennis M. Dailey. (2017). Sexual Expressions and Aging. *The Quarterly Journal of the Life Planning Network*, 4, 34-51.

EJ Mash, DA Wolfe (2015). Abnormal child psychology (6th Ed.). *Centage Learning*. ([https://bawar.net/data0/books/59f1f7e100a17/pdf/Abnormal%20Child%20Psychology%20-%206th%20Edition%20\(2015\).pdf](https://bawar.net/data0/books/59f1f7e100a17/pdf/Abnormal%20Child%20Psychology%20-%206th%20Edition%20(2015).pdf)) (検索日 2022.1.21)

Ellis, A. (1969). The art and science of love. Bantam Books, New York.

Eva S. Goldfarb, Norman A. Constantine. (2011). *SEXUALITY EDUCATION*, 検索日 2022.1.21,
(<http://www.phi.org/uploads/application/files/ivt4kzchq4s71zqg875wo4kjjamss0tufiflghif6g9rcty5.pdf>)

George W. Turner (2020). The Circles of Sexuality Promoting a Strengths-based Model Within Social Work that Provides a Holistic Framework for Client Sexual Well-being. Rooted in Strengths: Celebrating the Strengths Perspective in Social Work, *University of Kansas Libraries*, 305-325.

Mark S. Goldman, Frances K. Del Boca, Jack Darkes (1999). Alcohol Expectancy Theory: The Application of Cognitive Neuroscience. *Psychological theories of drinking and alcoholism*, 203–246, Guilford Press, New York.

HANDOUT 2.1: CIRCLES OF SEXUALITY, 検索日 2022.1.21,
(https://www.uua.org/files/pdf/p/parents_caregivers_sex_ed_ho2.1.pdf)

原口伶泉, 竹鼻ゆかり (2019). マッチングサービス・アプリの大学生の利用実態と影響要因. 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系, 71, 151-162.

東優子, 中尾美樹 (2015). 世界性の健康学会「性の権利宣言」. 社会問題研究, 64, 59-62.

古村健太郎, 松井豊 (2013). 親密な関係におけるコミットメントのモデルの概観. 対人社会心理学研究, 13, 59-70.

Interdisciplinary Sexuality Research Collaborative, We apply research to shape innovation in sexuality education, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.widenerisrc.com/about-us/>)

International Planned Parenthood Federation, IPPF Framework for CSE, 検索日 2022.1.21,

(https://www.ippf.org/sites/default/files/ippf_framework_for_comprehensive_sexuality_education.pdf)

Jabulani G. Kheswa, Chrizanne van Eeden, Sebastiaan Rothmann, Elizabeth Bothma. (2017). Mental health, self-esteem, and influences on sexual values and attitudes among black South African adolescent males. *Journal of Psychology in Africa*, 27(5), 1-6.

金政祐司, 大坊郁夫 (2003). 愛情の三角理論における3つの要素と親密な異性関係. 感情心理学研究, 10(1), 11-24.

川村孝 (2016). 小特集 保健室のいま 大学における保健室・学校医機能とその課題. 大学時報, 11, 62-65.

北村 (難波) 亜希子, 藤田小矢香 (2021). 看護系女子学生の性的自己意識に影響する要因の検討. 山陽論叢, 27(0), 43-53.

小松浩子, 野村美香, 高見沢恵美子, 南川雅子, 岡光京子, 伊藤恵美子 (2003). 慢性病をもつ高齢者の性に関する看護師の認識, 感情と援助への行動意図との関係. 日本老年看護学会誌, 7(2), 83-92.

高坂康雅 (2018). 青年期・成人期前期における恋人を欲しいと思わない者のコミュニケーションに対する自信と同性友人関係, 青年心理学研究, 29, 107-121.

厚生労働省, 2019年 年齢(5歳階級)別にみた性感染症(STD)報告数の年次推移, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>)

厚生労働省, 2020 年 母の年齢 (5 歳階級)・出生順位別にみた出生数, 検索日 2022.1.21,

(https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei20/dl/08_h4.pdf)

厚生労働省, 2021 年 人工妊娠中絶数の状況, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000784018.pdf>)

草野いづみ (2007). 大学生の性的自己意識, 性的リスク対処意識と性交経験との関係. *青年心理学研究*, 18(0), 41-50.

Many Voices, The Circles of Sexuality, An Explanation of the Circles of Sexuality, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.manyvoices.org/wpcontent/uploads/resources/10/18/2010%20at%209-07%20PM/CirclesofSexuality.pdf>)

松尾太加志, 中村知靖 (2002). 誰も教えてくれなかった因子分析: 数式が絶対に出てこない因子分析入門. 北大路書房, 京都.

Megan E. Patrick, Jennifer L. Maggs, M. Lynne Cooper, Christine M. Lee (2011). Measurement of Motivations For and Against Sexual Behavior. *SAGE Journals*, 18(4), 502-516.

御園一成, 杉澤秀博 (2015). 日本人成人の高齢者の性に関する知識. *老年学雑誌*, (6), 25-37.

宮本聰介, 宇井美代子 (2019). 質問紙調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで (初版第9刷). サイエンス社, 東京.

文部科学省, 令和2年度学校基本調査 (確定値) の公表について, 検索日 2022.1.21,

(https://www.mext.go.jp/content/20200825-mxt_chousa01-1419591_8.pdf)

村上宜寛 (2017). 心理尺度のつくり方 (初版第7刷). 北大路書房, 京都.

中村知靖 (2007). 心理尺度作成における因子分析の利用法. *The Annual Report of Educational Psychology in Japan*, 46, 42-45.

中村由香 (2009). 親密性としての“性—愛”論の構図. *生涯学習基盤経営研究*, 34, 113-122.

中井美樹 (2000). 若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観. 立命館産業社会論集, 36(3), 117-127.

Nicholas S. Perry, Kimberly M. Nelson, Michael P. Carey (2019). Diversity of Psychosocial Syndemic Indicators and Associations with Sexual Behavior with Male and Female Partners Among Early Adolescent Sexual Minority Males. *LGBT Health*, 6(8), 386–392.

日本性教育協会, 2019a 年 現代性教育ジャーナル「第 8 回青少年の性行動全国調査」(2017 年) の概要, 検索日 2022.1.21,
(https://www.jase.faje.or.jp/jigyo/journal/seikyoiku_journal_201901.pdf)

桶川泰 (2011). 親密性・親密圏をめぐる定義の検討—無定義用語としての親密性・親密圏の可能性—, 『鶴山論叢』, (11), 23-34.

大橋重子 (2021). 距離の定義に関するコンセプトのレビュー/—心理的距離概念の展開に向けて—. 現代ビジネス研究所紀要, (6), 1-16.

大嶋友香, 松岡恵, 西川浩昭 (2016). 妊婦の性生活に関する健康教育を行う助産師の意図, 行動に影響する要因—計画的行動理論を用いて—. 日本看護科学会誌, 36, 64-70.

小塩真司 (2001). 大学生用リスクテイキング行動尺度 (RIBS-U) の作成. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, 48, 257-265.

小塩真司 (2019). SPSS と Amos による心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで (第 3 版) . 東京図書, 東京.

Reagan R. Wetherill, Dan J. Neal, Kim Fromme. (2010). Parents, Peers, and Sexual Values Influence Sexual Behavior During the Transition to College. *Archives of sexual behavior*, 39(3), 682–694.

リプロ・ヘルス情報センター, JEX の『ジャパン・セックス・サーベイ』からみる日本人の性行動の実態 第 4 稿 (修正版) (2013) , 検索日. 2022.1.21,

(http://www.jfpa-clinic.org/data/jex_japan_sex_survey_130701.pdf)

ROADS TO FAMILY, Human reproduction is not just about sex anymore, 検索日 2022.1.21,

(<https://roadstofamily.com/blog/2020-9-17/human-reproduction-is-not-just-about-sex>)

Rosenberg, Morris (1965). Society and the adolescent self-image. Princeton University Press, Princeton, NEW JERSEY.

Sexplain Me This, The Circles of Sexuality, 検索日 2022.1.21,

(<https://sexplainmethis.wordpress.com/2018/04/02/the-circles-of-sexuality/>)

新村出 (2008). 広辞苑 第六版. 1435, 岩波書店, 東京.

Sofia Gruskin, Vithika Yadav, Antón Castellanos-Usigli, Gvantsa Khizanishvili, Eszter Kismödi (2019). Sexual health, sexual rights and sexual pleasure: meaningfully engaging the perfect triangle. *Sexual and Reproductive Health Matters*, 27(1), 1–12.

総務省統計局, 第 25 章 教育, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.stat.go.jp/data/nihon/25.html>)

Sternberg, R. J (1986). A triangular theory of love. *Psychological Review*, 93, 119-135.

Tanya M. Bass. (2016). Exploring Female Sexuality Embracing the Whole Narrative. *North Carolina Medical Journal*, 77(6), 430-432.

The Circles of Sexuality, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.health.state.mn.us/people/sexualhealth/circlesofsexuality.pdf>)

The Circles of Sexuality, An Explanation of the Circles of Sexuality, 検索日 2022.1.21, (<https://www.manyvoices.org/wp-content/uploads/resources/10/18/2010%20at%209-07%20PM/CirclesofSexuality.pdf>)

対馬栄輝 (2020). 医療系研究論文の読み方・まとめ方 (第 11 刷) . 東京図書, 東京.

対馬栄輝 (2014). SPSS で学ぶ医療系多変量データ解析 (第 8 刷) . 東京図書, 東京.

上田邦枝 (2014). 中学生の「性の健康心理」が学校生活スキルに及ぼす影響. 昭和大学保健医療学雑誌, (12), 90-99.

上澤悦子, 川口毅 (2010). 不妊女性の生殖性(Generativity)に焦点を当てた次世代養育プログラムの開発. 心身健康科学会誌, 6(2), 24-32.

UNITED STATES AGENCY INTERNATIONAL DEVELOPMENT, Circles of Sexuality and Definitions 2017, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.igwg.org/wp-content/uploads/2017/05/HandoutCirclesSexualityDefs.pdf>)

United Nations Population Fund, 包括的な性教育, 検索日 2022.1.21,

(<https://www.unfpa.org/comprehensive-sexuality-education>)

United Nations, Contraceptive Use by Method 2019, 検索日 2022.1.21,

(<https://digitallibrary.un.org/record/3849735>)

内田治, 平野綾子 (2015). JMP によるデータ分析 第 2 版. 東京出版株式会, 東京.

UUA & UCC, The Circles of Sexuality, 検索日 2022.1.21,
(https://www.uua.org/sites/live-new.uua.org/files/documents/owl/circles_sexuality.pdf)

若林沙知, 中西伸子 (2018). 大学生の性行動の実態と性感染症罹患に対する予防行動との関連について. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要, 14(0), 37-44.

渡會睦子, 熊本悦明, 萬田和志, 野路裕理子, 北村唯一 (2015). 郵送検査における咽頭・性器 Chlamydia trachomatis・Neisseria gonorrhoeae の年齢階級別感染率. 日本性感染症学会誌, 26(1), 81-90.

Weston M. Edwards, M.A., M.Div., M.A.T., Eli Coleman. (2004). Defining Sexual Health: A Descriptive Overview. Archives of Sexual Behavior, 33(3), 189–195.

William E. Hartman., Marilyn A. Fithian. (1974). Treatment of sexual dysfunction. Journal of Family Counseling, 2, 68-80.

山口和範, 渡邊美智子 (1990). 非正規性の下での最尤因子分析法とその効率評価. 關西大學經濟論集, 39(6), 1097-1118.

Yi-Jin Feng, Yu-Jun Fan, Zhen-Zhen Su, Bing-Bing Li, Bo Li, Nan Liu, Pei-Xi Wang (2021). Correlation of Sexual Behavior Change, Family Function, and Male-Female Intimacy Among Adults Aged 18-44 Years During COVID-19 Epidemic. Sexual Medicine, 9, 1-9.

図表

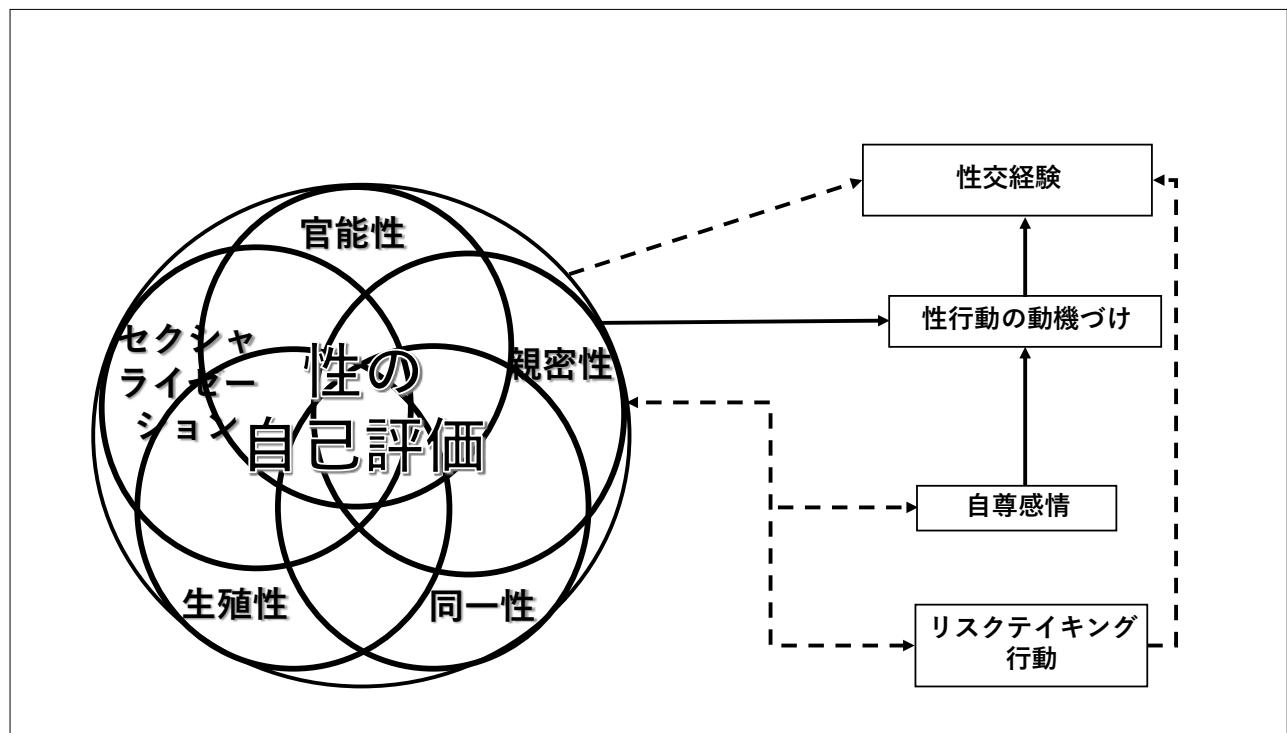


図1 性の自己評価尺度を開発する概念枠組み

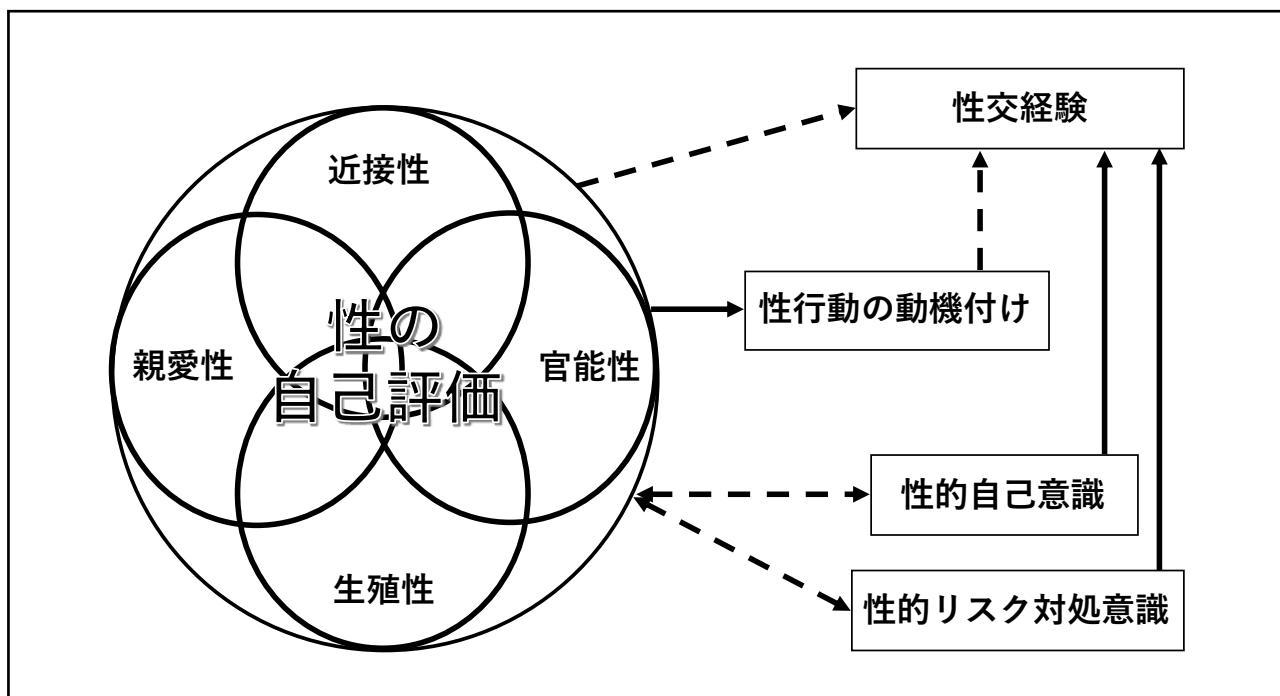


図 2 SSAS 修正版の概念枠組み

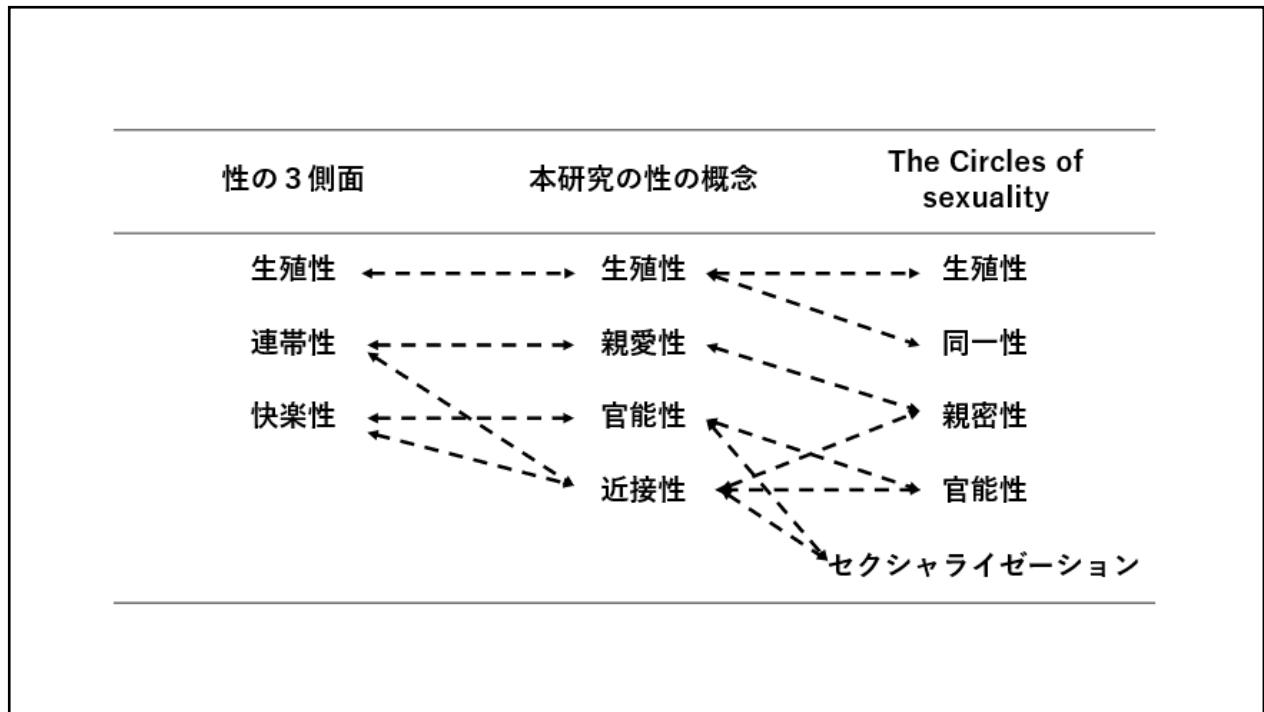


図3 性の概念の比較

表1－1 性を構成する下位概念

	Dennis M. Dailey (1981, 2017).	Advocates for Youth (1995)	Eva S. Goldfarb (2011)	Tanya M. Bass (2016)
定義・説明 Sensuality・官能性	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身体(性器を含む)、他人/パートナーとの心理的および生理学的な楽しみ。 オルガズムの緊張解放、潜在的に官能的に満足のいくものとして認識されている行動や他人/パートナーを意味している。 実際には、4つの具体的な領域で構成されると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震と他人の身体、特に性的パートナーの身体への意識と感情。 自分の身体がどのように見え、感じるのか、他人/パートナーに何ができるのか、双方で快楽になることを可能にする。 自分の身体が自分・相手に与えることができる喜びを楽しむことを可能にする。 いくつかの方法で自分たちの行動に影響を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> エロティックな可能性と性的実体として自分の体を受け入れる求める心と能力。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身体を認識し、受け入れ、そして心地よくする。 自分の身体と他人/パートナーの身体の生理学的および心理的な楽しみ。
	<ul style="list-style-type: none"> Sexualityの生理学的側面の理解と認識 スキンシップの飢え 性的エネルギーの解放 喜び 	<ul style="list-style-type: none"> ボディイメージ 喜びを経験する スキンシップの飢えを満足させる パートナーへの肉体的な魅力 	<ul style="list-style-type: none"> ボディイメージ 解剖学的構造 スキンシップの飢え 性的反応の周期 魅力 	<ul style="list-style-type: none"> ボディイメージ スキンシップの飢え 喜び 反応サイクル
定義・説明 Intimacy・親密性	<ul style="list-style-type: none"> 開放性、親密さ、そして他人との相互依存関係を享受するための能力(孤独の欠如)。 親密さとは、親密な関係の緊密な関係であり、各々の親密な領域が、調和のとれた共感的な理解および文脈上の交渉を通じた愛情を込めて知られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他人/パートナーとの親密さを受け入れることのできる能力。 親密さのいくつかの側面が含まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他人/パートナーの感情的な親密さを経験し、この親密さを往復させる能力。 	<ul style="list-style-type: none"> 他人と感情的に近いことを経験し、それを取り戻す能力と必要性。
	<ul style="list-style-type: none"> 調和のとれた共感的理解 脆弱 文脈上の交渉を愛情 	<ul style="list-style-type: none"> 共有 思いやり 感情的なリスクテイキング 脆弱性 他人を愛すること 		<ul style="list-style-type: none"> 思いやり リスクテイク 共有 脆弱性 愛情・好み 自己開示・信頼
定義・説明 Identity・同一性	<ul style="list-style-type: none"> 自分が性的な人間であるか、男性性(女性性)の感覚をどのように認識するかということ。 	<ul style="list-style-type: none"> 男性(女性)であることの感覚を含め、自分が性の人間であることの理解。 	<ul style="list-style-type: none"> 性的存在としての自己の感覚であり、またどのように生きることができるか、または識別されているかのこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 男性性(女性性)の感覚を含む、性的な人間の感覚。
	<ul style="list-style-type: none"> 性同一性 性役割 	<ul style="list-style-type: none"> 性同一性 ジェンダー役割 性的指向 	<ul style="list-style-type: none"> 性同一性 性的指向 性役割 	<ul style="list-style-type: none"> 性同一性 生物学的性 性役割 性的指向

表1－2 性を構成する下位概念

	Dennis M. Dailey (1981, 2017).	Advocates for Youth (1995)	Eva S. Goldfarb (2011)	Tanya M. Bass (2016)
定義 ・説明 Reproduction	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生産に関する自己期待を含む態度や行動、そしてこれらの態度や行動の結果としての個人や社会への影響を含む。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の生殖能力および性的関係を健康で楽しいものにする行動および態度。 	<ul style="list-style-type: none"> 出産のための Sexuality の基本的な理解。 	<ul style="list-style-type: none"> 子の生産、性および生殖器官のケアの維持、ならびに性行動の健康への影響に関連する態度および行動。
	<ul style="list-style-type: none"> 生殖生理学 家族計画 避妊 性感染症 中絶 出産 生殖バイアス 	<ul style="list-style-type: none"> 生殖に関する情報 感情と態度 性交 生殖解剖学 生殖 	<ul style="list-style-type: none"> 避妊 不妊治療・中絶 性感染症 更年期障害 	<ul style="list-style-type: none"> 事実と情報 感情と態度 解剖生理学 生殖システム 性交
定義 ・説明 ・生殖性 構成要素	<ul style="list-style-type: none"> 他人の行動や態度に影響を与えるための Sexuality の利用。 パートナーや他人を支配する、罰する、物々交換するもしくはそのための性交の使用、取り引きを表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 人々が性的に行動して他人に影響を与えたいたり、操作したり、支配したりするセクシュアリティの側面。 人間の Sexuality の闇のような側面と呼ばれることが多く、比較的無害なものからサディスト的に暴力的で残酷なものまで多岐にわたる。 自分も他人もそれらを性的に搾取する権利を持っていないことを知る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 他人に影響を与えて、制御し、操作するための身体の利用。 	<ul style="list-style-type: none"> Sexuality を使用して、他人の感情、思考または行動に影響を与える。
	<ul style="list-style-type: none"> 操作 管理 パワー（力） 影響力 取引 	<ul style="list-style-type: none"> いちゃつき レイプ 誘惑 セクハラ 近親相姦 	<ul style="list-style-type: none"> 性的なからかい いちゃつき 誘惑 セクハラ レイプ 性的な虐待 	<ul style="list-style-type: none"> いちゃつき 誘惑 操作 性的なパワー メディアの利用

表2－1 SSAS原版尺度項目草案

概念	キーワード	No	項目
Sensuality・官能性	・生理学的側面の十分な理解と認識	1	私はどちらかというと、匂いや音などの五感から得られる性的な好みがあるほうだ
	・スキンシップの飢え	2	私はどちらかというと、他人とのスキンシップを求めるほうだ
	・オルガズムの緊張の解放	3	私はどちらかというと、自分がどのような行為をしたら性的快感を得られるのか知っている
	・空想/妄想/感覚刺激	4	私はどちらかというと、自身の性欲はマスターベーションで満足するほうだ
	・触れる/匂い/味覚/ビジュアル/聴覚	5	私はどちらかというと、自身の性欲は性行為でないと満足できないほうだ
	・人間の性的反応サイクル	6	私はどちらかというと、どのようなことをするとオルガズムが得られるのかを知っているほうだ
	・身体イメージ	7	私はどちらかというと、性的な空想や妄想で快感が得られるほうだ
	・エロチズム/快楽	8	私はどちらかというと、相手との身体的な距離感に幸せを感じるほうだ
Intimacy・親密性	・調和のとれた共感的理解	9	私はどちらかというと、相手への思いやりが深いほうだ
	・相互説明責任	10	私はどちらかというと、相手への愛情表現を積極的に行うほうだ
	・脆弱	11	私はどちらかというと、相手への愛情は強く抱くほうだ
	・愛情	12	私はどちらかというと、他人に対してオープンにさらけ出すほうだ
	・思いやり/共有	13	私はどちらかというと、相手と親密になり愛し合うことは、同時に感情的に傷つけあうことも理解しているほうだ
	・好き/愛情	14	私はどちらかというと、相手に依存しやすいほうだ
	・コミュニケーション	15	私はどちらかというと、相手と良好なコミュニケーションを図れるほうだ
	・リスクテイク	16	私はどちらかというと、相手にも自分と同じだけの愛情を求めてしまうほうだ
Identity・同一性	・自己開示	17	私はどちらかというと、相手との心の距離感に幸せを感じるほうだ
	・信頼	18	私はどちらかというと、自身の生物学的（身体的）な性に満足しているほうだ
	・性同一性	19	私はどちらかというと、好みのタイプの性を理解しているほうだ
	・性役割	20	私はどちらかというと、自身の身体と心の性の一致について満足しているほうだ
	・生物学的性	21	私はどちらかというと、性的マイノリティ（LGBTなど）の人々に対して偏見は無いほうだ
	・性的指向	22	私はどちらかというと、「男性としての役割」や「女性としての役割」を重んじているほうだ
		23	私はどちらかというと、「男らしさ」や「女らしさ」の考え方を重んじているほうだ

表2－2 SSAS原版尺度項目草案

概念	キーワード	No	項目
Reproduction・生殖性	・男性女性の生殖生理学 ・家族計画の役割 ・避妊 ・性感染症 ・中絶 ・解剖学および生理学 ・性的／生殖のシステム ・妊娠および出産 ・出産 ・生殖バイアス ・生涯にわたる身体的変化 ・不妊	24 25 26 27 28 29 30 31	私はどちらかというと、自身の生殖にかかる臓器や生理反応に关心があるほうだ 私はどちらかというと、自身の健康的な性機能について理解しているほうだ 私はどちらかというと、性感染症予防行動をとっているほうだ 私はどちらかというと、避妊行動をとっているほうだ 私はどちらかというと、子どもを授かるための方法や出産に対して理解しているほうだ 私はどちらかというと、自身の生涯にわたる身体の変化を理解しているほうだ 私はどちらかというと、人工妊娠中絶が与える人体への影響を理解しているほうだ 私はどちらかというと、不妊にならないための生活を送っているほうだ
	・操作 ・制御 ・パワー ・影響 ・いちゃつくことと誘惑 ・満足を与えることと/受けけること ・性的嫌がらせ ・性的暴行と強姦 ・性的虐待と近親相姦 ・メディア	32 33 34 35 36 37 38 39	私はどちらかというと、自身の性を誘惑的に使ってセックスマピールをするほうだ 私はどちらかというと、相手といちゃいちゃするほうだ 私はどちらかというと、相手がどのように考えているかより、自分のために強引に性交を迫るほうだ 私はどちらかというと、自身の性を利用して相手を支配する傾向がある 私はどちらかというと、相手が嫌がっているかどうかの反応は気にしないほうだ 私はどちらかというと、性に関してメディアやネットの影響を受けるほうだ 私はどちらかというと、相手の性欲の強さ・弱さに対しては気にしないほうだ 私はどちらかというと、相手からの性的欲求をはぐらかすことができるほうだ

表3 SSAS 原版尺度項目

概念	No	尺度項目
Sensuality・官能性	1	私は、匂いや音などの五感から得られる性的な好みがある
	2	私は、人とのスキンシップを求める
	3	私は、自身の性的な快感が得られる方法を知っている
	4	私は、自身の性欲はマスターべーション（オナニー）でも満たされる
	5	私は、自身の性欲は性交（セックス）で満たされる
	6	私は、自身のオーガズム（性的絶頂感）が得られる方法を知っている
	7	私は、自身の性欲が抑えられないと、誰とでも性交（セックス）がしたいと思う
	8	私は、性的な空想や妄想で性欲が満たされる
	9	私は、人との身体的な距離感の近さで幸せを感じる
Intimacy・親密性	10	私は、人に対して思いやりが深い
	11	私は、人に対して愛情が深い
	12	私は、人に対して心を開いてさらけ出せる
	13	私は、人と親密になることは、同時に傷つけ合うことも知っている
	14	私は、自分より人の考え方（意見）に合わせてしまう
	15	私は、人と良好なコミュニケーションを図れる
	16	私は、人にも自分と同じだけの愛情を求めてしまう
	17	私は、性的な関係を持たなくても人と親密な関係でいられる
	18	私は、人との心の距離感の近さで幸せを感じる
Identity・同一性	19	私は、自身の生物学的（身体的）な性に満足している
	20	私は、自身の好みのタイプの性（性指向）を理解している
	21	私は、生まれ変わっても、今と同じ性で生まれ変わりたい
	22	私は、自身の身体と心の性が一致している
	23	私は、人が性的マイノリティ（LGBTなど）であるか・ないかは気にしない
	24	私は、性的マイノリティ（LGBTなど）同士の恋愛や結婚に賛成である
	25	私は、「男性としての役割」や「女性としての役割」を大事にしている
	26	私は、「男らしさ」や「女らしさ」の考え方を大事にしている
	27	私は、「男だったら・・・すべき」「女だったら・・・すべき」という自己の価値観を人に求める傾向がある
Reproduction・生殖性	28	私は、自身の生殖にかかる臓器や生理的反応に関心がある
	29	私は、自身の健康的な性機能について知っている
	30	私は、性感染症に対する予防行動をとっている
	31	私は、避妊行動をとっている
	32	私は、子どもを授かるための方法や出産について知っている
	33	私は、加齢に伴う生殖機能の変化について知っている
	34	私は、「子どもを生まない」と選択した人々の生き方や考え方を受け入れることができる
	35	私は、どのような人（障害のある人や犯罪行為のある人等）でも、妊娠・出産をもたらす可能性のある性交を行う権利があると思う
	36	私は、不妊にならないための生活行動を知っている
Sexualization・セクシゼーション	37	私は、自身の性を誘惑的に使ってセックスアピールをする
	38	私は、いちやいちやすることが好きだ
	39	私は、自分の性欲を満たすために性交（セックス）を迫ろうとする傾向がある
	40	私は、自身の性を利用して人を支配する傾向がある
	41	私は、人が自身を嫌がっているかどうかは気にしない
	42	私は、性に関してインターネットの影響を受ける
	43	私は、人の性欲の強さ・弱さについて気にしない
	44	私は、セクシーな衣装を身につけて視線を集めたい
	45	私は、自身のメリットのために引き換えとして行う性交（セックス）は容認できる

表4 SSAS原版の調査における対象者の属性

(n=359)

項目	n*	%
所属		
大学	349	97.21
専門学校	10	2.79
性別		
男性	131	36.50
女性	228	63.50
年齢	Mean (SD)	19.95 (± 1.42)
学業や仕事以外に利用する1日あたりのインターネット(PC、スマートフォンを含む)		
1時間以内	4	1.10
1~3時間以内	56	15.60
3~6時間以内	138	38.40
6~12時間以内	48	13.40
暇さえあれば常に	111	30.90
現在交際しているパートナーの有無		
いない	226	63.00
いる	129	35.90
不特定多数いる	2	0.60
性交(セックス)の経験の有無		
経験なし	150	41.80
経験あり	209	58.20
初性交時の年齢(性交経験を有する者)	Mean (SD)	17.51 (± 1.66)
妊娠した(させた)経験の有無		
経験なし	351	97.80
経験あり	8	2.20
性感染症罹患経験の有無		
経験なし	341	95.00
経験あり	17	4.70

n*は欠損値を含むため合計と一致しないことがある

表 5 - 1 SSAS 原版項目分析

(n=359)

概念	項目	Mean	SD	天井効果	フロア-効果	項目間相関	I-T相関	G-P(P値)
官能性	1. 私は匂いや音などの五感から得られる性的な好みがある	2.69	0.99	3.68	1.70		0.39**	0.000
	2. 私は、人とのスキンシップを求める	2.81	0.97	3.78	1.84		0.62**	0.000
	3. 私は、自身の性的な快感が得られる方法を知っている	2.64	1.01	3.65	1.63	6	0.60**	0.000
	4. 私は、自身の性欲はマスターべーション(オナニー)でも満たされる	2.36	0.96	3.32	1.40		0.30**	0.000
	5. 私は、自身の性欲は性交(セックス)で満たされる	2.45	1.07	3.52	1.38		0.59**	0.000
	6. 私は、自身のオーガズム(性的絶頂感)が得られる方法を知っている	2.29	1.12	3.41	1.17	3	0.55**	0.000
	7. 私は、自身の性欲が抑えられない、誰とでも性交(セックス)がしたいと思う	1.47	0.84	2.31	0.63		0.39**	0.000
	8. 私は、性的な空想や妄想で性欲が満たされる	1.84	0.89	2.73	0.95		0.14*	0.035
親密性	9. 私は、人との身体的な距離感の近さで幸せを感じる	2.64	1.00	3.64	1.64		0.57**	0.000
	10. 私は、人に対して思いやりが深い	3.08	0.76	3.84	2.32		0.40**	0.000
	11. 私は、人に対して愛情が深い	2.99	0.84	3.83	2.15		0.50**	0.000
	12. 私は、人に対して心をオープンにさらけ出せる	2.50	0.97	3.47	1.53		0.45**	0.000
	13. 私は、人と親密になることは、同時に傷つけ合うことも知っている	3.02	0.86	3.88	2.16		0.30**	0.000
	14. 私は、自分より人の考え方(意見)に合わせてしまう	2.83	0.95	3.78	1.88		0.10	0.131
	15. 私は、人と良好なコミュニケーションを図れる	2.86	0.84	3.70	2.02		0.39**	0.000
	16. 私は、人にも自分と同じだけの愛情を求めてしまう	2.73	0.94	3.67	1.79		0.48**	0.000
	17. 私は、性的な関係を持たなくても人と親密な関係でいられる	3.41	0.70	4.11	2.72		0.07	0.209
	18. 私は、人との心の距離感の近さで幸せを感じる	3.27	0.70	3.97	2.57		0.39**	0.000

項目間相関の太字の数字は、 $r \geq 0.7$ であった項目 No.を表す
 天井効果；Mean+1 SD、フロア-効果；Mean-1 SD

表5－2 SSAS原版項目分析

(n=359)

概念	項目	Mean	SD	天井効果	フロア-効果	項目間相関	I-T相関	G-P(P値)
同一性	19. 私は、自身の生物学的（身体的）な性に満足している	3.06	0.92	3.98	2.14		0.40**	0.000
	20. 私は、自身の好みのタイプの性（性指向）を理解している	3.01	0.96	3.97	2.05		0.53**	0.000
	21. 私は、生まれ変わっても、今と同じ性で生まれ変わりたい	3.01	0.96	3.97	2.05		0.33**	0.000
	22. 私は、自身の身体と心の性が一致している	3.68	0.62	4.30	3.06		0.12*	0.041
	23. 私は、人が性的マイノリティ（LGBTなど）であるか・ないかは気にしない	3.43	0.82	4.25	2.61		0.22**	0.001
	24. 私は、性的マイノリティ（LGBTなど）同士の恋愛や結婚に賛成である	3.56	0.74	4.30	2.82		0.26**	0.000
	25. 私は、「男性としての役割」や「女性としての役割」を大事にしている	2.42	1.00	3.42	1.42	26	0.28**	0.000
	26. 私は、「男らしさ」や「女らしさ」の考え方を大事にしている	2.38	1.02	3.40	1.36	25	0.28**	0.000
	27. 私は、「男だったら・・・すべき」「女だったら・・・すべき」という自己の価値観を人に求める傾向がある	1.79	0.82	2.61	0.97		0.17**	0.002
	28. 私は、自身の生殖にかかる臓器や生理的反応に关心がある	2.43	0.89	3.32	1.55		0.39**	0.000
生殖性	29. 私は、自身の健康的な性機能について知っている	2.71	0.85	3.56	1.87		0.39**	0.000
	30. 私は、性感染症に対する予防行動をとっている	3.10	0.95	4.05	2.15		0.33**	0.000
	31. 私は、避妊行動をとっている	3.32	0.96	4.28	2.36		0.27**	0.000
	32. 私は、子どもを授かるための方法や出産について知っている	3.58	0.68	4.26	2.90		0.37**	0.000
	33. 私は、加齢に伴う生殖機能の変化について知っている	3.05	0.93	3.98	2.13		0.28**	0.000
	34. 私は、「子どもを生まない」と選択した人々の生き方や考え方を受け入れることができる	3.54	0.72	4.26	2.82		0.13*	0.003
	35. 私は、どのような人（障害のある人や犯罪行為のある人等）でも、妊娠・出産をもたらす可能性のある性交を行う権利があると思う	3.29	0.85	4.14	2.44		0.19**	0.000
	36. 私は、不妊にならないための生活行動を知っている	2.53	1.04	3.57	1.50		0.19**	0.002

項目間相関の太字の数字は、 $r \geq 0.7$ であった項目 No.を表す
天井効果；Mean+1 SD、フロア-効果；Mean-1 SD

表5－3 SSAS原版項目分析

(n=359)

概念	項目	Mean	SD	天井効果	フロア-効果	項目間相関	I-T相関	G-P(P値)
セクシーライズーション	37. 私は、自身の性を誘惑的に使ってセックスアピールをする	1.71	0.82	2.53	0.89		0.46**	0.000
	38. 私は、いちゃいちゃすることが好きだ	2.85	1.03	3.88	1.82		0.62**	0.000
	39. 私は、自分の性欲を満たすために性交(セックス)を迫ろうとする傾向がある	1.78	0.89	2.67	0.89		0.51**	0.000
	40. 私は、自身の性を利用して人を支配する傾向がある	1.46	0.75	2.21	0.71		0.27**	0.000
	41. 私は、人が自身を嫌がっているかどうかは気にしない	1.57	0.84	2.41	0.73		0.08	0.127
	42. 私は、性に関してインターネットの影響を受ける	2.44	0.93	3.37	1.52		0.35**	0.000
	43. 私は、人の性欲の強さ・弱さについて気にしない	2.75	0.99	3.74	1.76		0.01	0.649
	44. 私は、セクシーな衣装を身につけて視線を集めたい	1.37	0.68	2.05	0.69		0.25**	0.000
	45. 私は、自身のメリットのために引き換えとして行う性交(セックス)は容認できる	2.10	1.00	3.10	1.10		0.33**	0.000

項目間相関の太字の数字は、 $r \geq 0.7$ であった項目 No.を表す

天井効果：Mean+1 SD、フロア-効果：Mean-1 SD

表6 SSAS 原版探索的因子分析

(n=359)

因子名 項目	Cronbach's α	第1因子 (I)	第2因子 (II)	第3因子 (III)	第4因子 (IV)	共通性
第1因子：近接性 ($\alpha = .81$)						
2. 私は、人とのスキンシップを求める。	0.74	0.14	-0.02	-0.02	0.66	
9. 私は、人との身体的な距離感の近さで幸せを感じる。	0.62	0.08	0.06	-0.03	0.46	
38. 私は、いちゃいちゃすることが好きだ。	0.57	0.32	-0.04	0.02	0.63	
1. 私は匂いや音などの五感から得られる性的な好みがある	0.57	0.05	0.01	-0.14	0.29	
16. 私は、人にも自分と同じだけの愛情を求めてしまう。	0.55	0.02	0.03	0.04	0.35	
第2因子：官能性 ($\alpha = .73$)						
39. 私は、自分の性欲を満たすために性交（セックス）を迫ろうとする傾向がある。	0.17	0.68	-0.25	0.04	0.55	
5. 私は、自身の性欲は性交（セックス）で満たされる。	0.12	0.63	0.10	-0.01	0.55	
37. 私は、自身の性を誘惑的に使ってセックスアピールをする	0.09	0.53	-0.08	0.03	0.33	
3. 私は、自身の性的な快感が得られる方法を知っている。	-0.01	0.49	0.29	-0.02	0.41	
第3因子：生殖性 ($\alpha = .67$)						
33. 私は、加齢に伴う生殖機能の変化について知っている。	0.04	-0.19	0.63	-0.08	0.34	
29. 私は、自身の健康的な性機能について知っている。	-0.13	0.10	0.60	0.04	0.37	
28. 私は、自身の生殖にかかわる臓器や生理的反応に关心がある	0.21	-0.07	0.45	-0.10	0.25	
30. 私は、性感染症に対する予防行動をとっている。	0.02	-0.09	0.42	0.13	0.21	
19. 私は、自身の生物学的（身体的）な性に満足している。	-0.05	0.16	0.40	0.05	0.23	
20. 私は、自身の好みのタイプの性（性指向）を理解している	0.03	0.33	0.40	0.02	0.38	
第4因子：親愛性 ($\alpha = .74$)						
15. 私は、人と良好なコミュニケーションを図れる。	-0.25	0.14	-0.02	0.74	0.46	
10. 私は、人に対して思いやりが深い。	0.21	-0.22	0.02	0.65	0.52	
12. 私は、人に対して心を開いてさらけ出せる。	-0.14	0.19	-0.03	0.62	0.37	
11. 私は、人に対して愛情が深い。	0.35	-0.13	0.07	0.53	0.57	
尺度全体 $\alpha = .85$		固有値	5.38	1.88	1.73	1.21
		寄与率 (%)	28.30	9.88	9.12	6.38
		累積寄与率 (%)	28.30	38.18	47.30	53.68
因子間相関						
I		I	—	0.56	0.36	0.5
II		II	—	0.34	0.28	
III		III	—	—	0.31	
IV		IV	—	—	—	

主因子法 プロマックス回転

表 7 SSAS 原版および外的基準尺度の Cronbach's α 係数

(n=359)

項目	α 係数
SSAS 尺度全体	0.85
第 1 因子：近接性	0.81
第 2 因子：官能性	0.73
第 3 因子：生殖性	0.67
第 4 因子：親愛性	0.74
外的基準尺度：大学生用リスクテイキング行動尺度	0.82
外的基準尺度：Rosenberg 自尊感情尺度日本語版	0.86

表 8 SSAS 原版と外的基準尺度との相関分析

(n=359)

SSAS 合計得点		近接性	官能性	生殖性	親愛性	自尊感情 尺度	個人的 リスク 行動	社会的 リスク 行動
SSAS 合計得点	—	.87**	.80**	.70**	.74**	.25**	.25**	.15**
近接性		—	.69**	.44**	.58**	.09	.25**	.16**
官能性			—	.43**	.35**	.19**	.36**	.27**
生殖性				—	.42**	.25**	.02	-.01
親愛性					—	.28**	.14**	.01
自尊感情 尺度						—	.08	-.11*
個人的 リスク行動							—	.45**
社会的 リスク行動								—

Spearman の順位相関係数

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）

* 相関係数は 5% 水準で有意（両側）

表 9 SSAS 原版と性交経験との関連

(n = 359)

性交経験	n	平均ランク	順位和	U値	p 値
SSAS 合計得点	なし	150	111.013	16652	5327 0.000*
	あり	209	229.512	47968	
近接性	なし	150	124.493	18674	7349 0.000*
	あり	209	219.837	45946	
官能性	なし	150	101.153	15173	3848 0.000*
	あり	209	236.589	49447	
生殖性	なし	150	135.633	20345	9020 0.000*
	あり	209	211.842	44275	
親愛性	なし	150	148.733	22310	10985 0.000*
	あり	209	202.44	42310	

分析 : Mann-Whitney U test, *p<0.05

表 10 SSAS 原版と追加修正された尺度項目

	原版尺度項目	追加修正された尺度項目
官能性	45. 私は、自身のメリットのために引き換えとして行う性交（セックス）は容認できる	私は、自分のメリットと引き換えに行う性交（セックス）を容認できる
	42. 私は、性に関してインターネットの影響を受ける	私は、アダルトサイト等の画像や動画に影響を受ける
	7. 私は、自身の性欲が抑えられないと、誰とでも性交（セックス）がしたいと思う	私は、好意があれば SNS を通じて知り合った相手とすぐに性交（セックス）できる
親愛性	17. 私は、性的な関係を持たなくとも人と親密な関係でいられる	私は、気持ちが満たされれば性交は求めない
	18. 私は、人との心の距離感の近さで幸せを感じる	私は、人との心の距離感の近さで幸せを感じる
		私は、困っている人を見ると放つておけない

表 11 SSAS 修正版尺度項目

修正版尺度項目
1. 私は、匂いや音などの五感から得られる性的な好み（フェチ）がある
2. 私は、人前で行える程度の「手を繋ぐ」「腕を組む」等のスキンシップを求める
3. 私は、人との身体的な距離感が近いほど幸せを感じる
4. 私は、人にも自分と同じくらいの愛情を求めてしまう
5. 私は、スキンシップ以上のイチャイチャを好む
6. 私は、性欲を満たすために性交（セックス）を迫る傾向がある
7. 私は、自身の性的魅力を使って誘惑する
8. 私は、自分の性欲は性交（セックス）で満たされる（と思う）
9. 私は、自分の性的な快感が得られる方法を知っている
10. 私は、金品等のために行う性交（セックス）はしても良いと思う
11. 私は、アダルトサイト等の画像や動画と同じような性交（セックス）がしたい
12. 私は、SNS で出会ったよく分からぬ相手とでも性交（セックス）できる
13. 私は、人と良好なコミュニケーションを図れる
14. 私は、人に対して心をオープンにさらけ出せる
15. 私は、人に対して思いやりが深い
16. 私は、人に対して愛情が深い
17. 私は、困っている人を見ると放っておけない
18. 私は、心が通じていれば身体的な性的快楽は求めない
19. 私は、人との心の距離感の近さで幸せを感じる
20. 私は、自分の身体的な性別に満足している
21. 私は、自身の好みのタイプの性（性指向）を理解している
22. 私は、自分の身体が子どもをつくるための機能を有しているか関心がある
23. 私は、性交（セックス）時の身体の生理的反応（濡れる・勃起する等）に関心がある
24. 私は、年を重ねると妊娠しにくくなることを知っている
25. 私は、不妊症にならない生活（非喫煙・性感染症予防等）について関心がある

表 12 SSAS 修正版の調査における対象者の属性

(n=500)

	n*	%
所属		
大学	403	80.60
短期大学	8	1.60
専門学校	89	17.80
性別		
男性	250	50.00
女性	250	50.00
専攻		
文系	272	54.40
理系	107	21.40
医療系	74	14.80
その他	47	9.40
年齢		
mean(±SD)	20.48 (±1.45)	
現在交際しているパートナー		
いない	362	72.40
いる	137	27.40
不特定多数いる	1	0.20
パートナー（恋人）に対する考え方		
常にパートナーがいないとダメだ	24	4.80
できたらパートナーが欲しい	261	52.20
パートナーはバーチャル（2次元）で良い	14	2.80
パートナーが居なくても（1人でも）良い	201	40.20
性欲の程度		
弱い	88	17.60
やや弱い	175	35.00
やや強い	191	38.20
強い	46	9.20
性感染症罹患経験		
経験なし	492	98.40
経験あり	8	1.60
性交（セックス）経験		
経験なし	309	61.80
経験あり	191	38.20
初性交時年齢		
mean(±SD)	17.94 (±2.39)	
妊娠した（妊娠させた）経験		
経験なし	186	37.20
経験あり	5.0	0.10

n* は無回答を含むため合計と一致しないことがある

表 13 SSAS 修正版の項目分析

(n = 500)

概念	項目	Mean	SD	天井効果	フロア効果	I-T相関	G-P(P値)
近接性	1. 私は、匂いや音などの五感から得られる性的な好み（フェチ）がある	2.29	0.93	3.22	1.36	0.56**	<.001
	2. 私は、人前で行える程度の「手を繋ぐ」「腕を組む」等のスキンシップを求める	2.33	0.90	3.23	1.43	0.67**	<.001
	3. 私は、人との身体的な距離感が近いほど幸せを感じる	2.46	0.89	3.35	1.57	0.70**	<.001
	4. 私は、人にも自分と同じくらいの愛情を求めてしまう	2.45	0.85	3.30	1.60	0.55**	<.001
	5. 私は、スキンシップ以上のイチャイチャを好む	2.18	0.84	3.02	1.34	0.70**	<.001
官能性	6. 私は、性欲を満たすために性交（セックス）を迫る傾向がある	1.83	0.83	2.66	1.00	0.63**	<.001
	7. 私は、自身の性的魅力を使って誘惑する	1.62	0.71	2.33	0.91	0.56**	<.001
	8. 私は、自分の性欲は性交（セックス）で満たされる（と思う）	2.10	0.90	3.00	1.21	0.68**	<.001
	9. 私は、金品等のために行う性交（セックス）はしても良いと思う	1.74	0.83	2.57	0.92	0.34**	<.001
	10. 私は、アダルトサイト等の画像や動画と同じような性交（セックス）がしたい	1.72	0.81	2.53	0.91	0.46**	<.001
親愛性	11. 私は、SNSで出会ったよく分からぬ相手とでも性交（セックス）できる	1.50	0.76	2.26	0.74	0.38**	<.001
	12. 私は、人と良好なコミュニケーションを図れる	2.48	0.83	3.31	1.65	0.57**	<.001
	13. 私は、人に対して心をオープンにさらけ出せる	2.09	0.83	2.92	1.26	0.53**	<.001
	14. 私は、人に対して思いやりが深い	2.67	0.77	3.44	1.90	0.54**	<.001
	15. 私は、人に対して愛情が深い	2.51	0.80	3.31	1.71	0.56**	<.001
生殖性	16. 私は、困っている人を見ると放っておけない	2.65	0.73	3.38	1.92	0.38**	<.001
	17. 私は、心が通じていれば身体的な性的快楽は求めない	2.57	0.80	3.37	1.77	0.13**	0.008
	18. 私は、人との心の距離感の近さで幸せを感じる	2.67	0.87	3.54	1.80	0.58**	<.001
	19. 私は、自分の身体的な性別に満足している	2.93	0.83	3.76	2.11	0.41**	<.001
	20. 私は、自身の好みのタイプの性（性指向）を理解している	2.71	0.84	3.55	1.87	0.56**	<.001
	21. 私は、自分の身体が子どもをつくるための機能を有しているか関心がある	2.40	0.88	3.28	1.52	0.61**	<.001
	22. 私は、性交（セックス）時の身体の生理的反応（濡れる・勃起する等）に関心がある	2.33	0.89	3.22	1.44	0.70**	<.001
	23. 私は、自分の性的な快感が得られる方法を知っている	2.46	0.90	3.36	1.56	0.63**	<.001
	24. 私は、年を重ねると妊娠しにくくなることを知っている	3.04	0.80	3.84	2.24	0.33**	<.001
	25. 私は、不妊症にならない生活（非喫煙・性感染症予防等）について関心がある	2.43	0.89	3.32	1.54	0.56**	<.001

天井効果 ; Mean+1 SD、フロア効果 ; Mean-1 SD、*p < 0.05 で有意、斜体 ; 削除項目

表 14 SSAS 修正版の探索的因子分析

(n=500)

因子名 項目内容	Cronbach's α	第1因子 (I)	第2因子 (II)	第3因子 (III)	第4因子 (IV)	共通性
第1因子：官能性 ($\alpha = .846$)						
6. 私は、性欲を満たすために性交（セックス）を迫る傾向がある	0.83	0.06	0.09	-0.21	0.65	
8. 私は、自分の性欲は性交（セックス）で満たされる（と思う）	0.69	0.01	0.04	0.07	0.57	
7. 私は、自身の性的魅力を使って誘惑する	0.69	0.15	0.02	-0.19	0.45	
10. 私は、アダルトサイト等の画像や動画と同じような性交（セックス）がしたい	0.68	-0.11	0.02	-0.06	0.40	
9. 私は、金品等のために行う性交（セックス）はしても良いと思う	0.57	-0.14	-0.03	-0.03	0.26	
22. 私は、性交（セックス）時の身体の生理的反応（濡れる・勃起する等）に関心がある	0.51	-0.03	-0.05	0.45	0.63	
23. 私は、自分の性的な快感が得られる方法を知っている	0.49	-0.04	-0.13	0.46	0.54	
第2因子：親愛性 ($\alpha = .819$)						
14. 私は、人に対して思いやりが深い	-0.07	0.82	-0.03	0.03	0.63	
15. 私は、人に対して愛情が深い	-0.08	0.79	0.05	0.04	0.65	
16. 私は、困っている人を見ると放っておけない	-0.22	0.69	0.03	0.06	0.46	
12. 私は、人と良好なコミュニケーションを図れる	0.13	0.57	-0.03	0.07	0.44	
13. 私は、人に対して心をオープンにさらけ出せる	0.28	0.55	-0.04	-0.11	0.38	
第3因子：近接性 ($\alpha = .867$)						
4. 私は、人にも自分と同じくらいの愛情を求めてしまう	-0.06	-0.09	0.83	0.02	0.59	
3. 私は、人との身体的な距離感が近いほど幸せを感じる	0.09	0.05	0.76	0.00	0.72	
2. 私は、人前で行える程度の「手を繋ぐ」「腕を組む」等のスキンシップを求める	0.18	0.09	0.59	-0.01	0.56	
18. 私は、人の心の距離感の近さで幸せを感じる	-0.12	0.14	0.59	0.17	0.51	
5. 私は、スキンシップ以上のイチャイチャを好む	0.37	-0.10	0.56	0.06	0.65	
第4因子：生殖性 ($\alpha = .757$)						
24. 私は、年を重ねると妊娠しにくくなることを知っている	-0.34	-0.07	0.17	0.69	0.39	
25. 私は、不妊症にならない生活（非喫煙・性感染症予防等）について関心がある	0.09	-0.01	0.02	0.63	0.47	
19. 私は、自分の身体的な性別に満足している	-0.20	0.08	0.02	0.61	0.35	
21. 私は、自分の身体が子どもをつくるための機能を有しているか関心がある	0.17	0.09	-0.04	0.56	0.49	
20. 私は、自身の好みのタイプの性（性指向）を理解している	0.14	0.14	-0.03	0.46	0.38	
尺度全体 $\alpha = .911$	固有値	7.82	2.48	1.43	1.40	
	寄与率 (%)	35.53	11.26	6.48	6.35	
	累積寄与率 (%)	35.53	46.79	53.27	59.62	
	因子間相関	I	II	III	IV	
	I	—	0.39	0.55	0.52	
	II		—	0.54	0.60	
	III			—	0.54	
	IV				—	

最尤法 プロマックス回転 適合度検定： $\chi^2 = 521.067, df = 149, p = 0.000$
 KMO 値：0.901 Bartlett の球面性検定： $\chi^2 = 3573.063, df = 120, p = 0.000$

表 15 SSAS 修正版および外的基準尺度の Cronbach's α 係数 ($n=500$)

項目		α 係数
SSAS 修正版尺度全体	22 項目	0.91
第 1 因子：官能性	7 項目	0.85
第 2 因子：親愛性	5 項目	0.82
第 3 因子：近接性	5 項目	0.87
第 4 因子：生殖性	5 項目	0.76
外的基準尺度：性的自己意識尺度	15 項目	0.88
外的基準尺度：性的リスク対処意識尺度	18 項目	0.85

表 16 SSAS 修正版と外的基準尺度との相関

(n=500)

SSAS 修正版 合計得点		官能性	親愛性	近接性	生殖性	性的 自己意識	性的 リスク 対処意識
SSAS 修正版 合計得点	—	.78**	.69**	.81**	.73**	.68**	.53**
官能性		—	.33**	.53**	.43**	.61**	.35**
親愛性			—	.48**	.48**	.46**	.47**
近接性				—	.49**	.45**	.37**
生殖性					—	.53**	.49**
性的自己意識						—	.62**
性的リスク対処意識							—

Spearman の順位相関係数

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）

表 17 SSAS 修正版と性交経験との関連 ($n=500$)

	Mean	SD	Med	Min	Max	U 値	P 値
SSAS 合計得点	51.8	10.9	53	22	88	43072.5	.000*
官能性	13.8	4.2	14	7	28	42019.5	<.001*
親愛性	12.4	3.0	13	5	20	37926.5	<.001*
近接性	12.1	3.5	13	5	20	40415.5	<.001*
生殖性	13.5	3.0	14	5	20	38326.0	<.001*

分析：Mann-Whitney U test

* $p < 0.05$

表 18 SSAS 修正版と性欲の程度との関連

(n=500)

項目	性欲の程度	n	平均ランク	H値	P値
SSAS合計得点	弱い	88	120.01	125.02	<.001*
	やや弱い	175	227.91		
	やや強い	191	311.87		
	強い	46	331.27		
官能性	弱い	88	111.69	173.01	<.001*
	やや弱い	175	211.94		
	やや強い	191	319.77		
	強い	46	375.14		
親愛性	弱い	88	193.32	21.34	<.001*
	やや弱い	175	245.59		
	やや強い	191	274.10		
	強い	46	280.59		
近接性	弱い	88	144.88	79.49	<.001*
	やや弱い	175	234.53		
	やや強い	191	301.30		
	強い	46	302.38		
生殖性	弱い	88	167.85	45.19	<.001*
	やや弱い	175	242.57		
	やや強い	191	288.03		
	強い	46	282.92		

分析：Kruskal-Wallis test

* p < 0.05

付録

様式 1：研究協力依頼書

○○大学○○学部○○学科
学部長 ○○ ○○ 殿

令和〇年〇月吉日
東京医療保健大学大学院看護学研究科
博士後期課程 松山 妙子

研究協力についてのご依頼

拝啓 時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私は、松山妙子は、東京医療保健大学大学院看護学研究科（博士課程）に在籍しております。この度、博士論文執筆の一環として、青年期を対象とした性の自己認識尺度の開発と信頼性・妥当性の検証の研究を進めています。学校保健室やクリニック等で本尺度が使用されることによって青年期の多くの人々が自身の性の傾向を客観視することが期待でき、Sexuality と性的健康に関連する多くの分野に貢献できると考えております。本研究はそのための基礎研究となります。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による厳しい状況の中、お手数をお掛け致しますが、研究の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

記

1. 研究課題

「青年期の性の自己認識尺度の開発」

2. 研究者氏名

研究者 松山 妙子（東京医療保健大学大学院看護学研究科 大学院生）
研究指導者 齋藤 益子（東京医療保健大学大学院看護学研究科 前教授）

3. 研究目的・方法

1) 目的：青年期を対象とした性の自己認識尺度の開発と信頼性・妥当性の検証をすることである。

2) 対象者：全国の18~24歳の青年男女。

3) 研究方法：オンラインによる Web 調査。

(1) 調査期間：令和2年2月～令和3年3月を予定

(2) 調査の流れ：

・研究の許可のあった高等教育機関（同意書の返信）に対し、調査フォームにアクセスされる URL もしくは QR コードが掲載された調査依頼書を必要部数送付する。

・貴学の教職員の方々に対象者（学生）への調査依頼書の配布を依頼する。

・調査フォームにアクセスし、アンケートの回答・送信をもって個人の同意とみなす。

(3) 研究の同意・撤回について：

・本研究への協力は、貴学の自由意思で決めて頂き、同封の同意書の返信をもって同意とさせて頂く。改めて必要部数の調査依頼書（調査フォームの URL および QR コード記載用紙）を送付する予定であり、同意書返信後から調査依頼書の配布までの間は、同封の撤回書にて承諾の撤回が可能である。

・調査依頼書配布後、調査フォームの送信をもって個人の同意とみなし、無記名回答であることから、送信後は撤回が不可能である。項目によっては、非常にデリケートな内容もあるため、回答時に不快に思われる可能性もあることを踏まえ、回答者の自由意思で研究協力の判断をいただく。また、研究協力後、心身に不調を生じた際には、臨床心理士の専門家等をご紹介させていただきます。

4. 倫理的配慮

当大学院研究等倫理委員会の審査（令和2年3月2日）により承認を得た（別添）。

【お問い合わせ先】

研究者：松山 妙子

所属：東京医療保健大学大学院看護学研究科 大学院生（博士課程）

住所：〒152-8558 東京都目黒区東が丘 2-5-1

e-mail : ta-matsuyama@thcu.ac.jp

指導教員：齋藤 益子

所属：東京医療保健大学大学院看護学研究科 前教授

住所：〒152-8558 東京都目黒区東が丘 2-5-1

e-mail : m-saito@thcu.ac.jp

添付資料：研究計画書、研究等倫理審査結果通知書、調査依頼書、研究協力同意書、撤回書、調査フォーム

18～24歳の青年男女を対象とした調査のご協力のお願い

本調査は、18～24歳の青年期を対象とした性の自己認識尺度の開発と信頼性・妥当性の検証を目的としています。学校保健室やクリニック等で本尺度を使用することで、個人の性の認識が可視化され、自身の性の傾向を見つめ直すことができ、性的健康をより良い状態へと導くことが期待できます。本研究は、そのための基礎研究となります。

ある程度、自立した生活を過ごされているみなさんには、性的な場面に直面する機会が増えていることと思いますが、自分自身の性に対する考え方や傾向について、どの程度理解し、行動することができているでしょうか。本研究は、自分の性の認識を自己評価することで、自身の性行動を見つめ直すことにつながること期待しています。

本調査の趣旨を理解しご協力いただける方は、本フォームの質問項目にお答えくださいますようお願いいたします。所要時間は 20 分前後です。調査フォームにご入力いただく際は、周囲に相談せず、ありのまま正直にご回答をお願いいたします。

研究課題名：青年期を対象とした性の自己認識尺度の開発

①調査実施期間：令和2年2月～令和3年3月を予定

②研究方法：オンラインによる個別 Web 調査

③研究対象者および人数：日本国内 18～24歳の青年男女

④倫理的な配慮について

- ・当該研究の実施については、研究機関の長の許可を受けて実施しています。
- ・本研究は東京医療保健大学大学院研究等倫理委員会の承認を得ています。
- ・本調査に参加されるかどうかは、自由です。参加されなくても不利益を被ることはできません。
- ・学校の成績とは一切関係ありません。
- ・本調査は無記名で行い、回答はまとめてコンピュータで処理を致しますので、個人が特定されることはありません。
- ・本調査を通じて得られた情報は、研究成果として、学術団体の総会や学術雑誌などで発表することができます。しかし、いずれの場合も、個人が特定される情報を示すことは一切ありません。
- ・本研究が性の自己認識の尺度開発であることから、質問項目によっては、非常にデリケートな内容もあります。そのため、回答時に不愉快に思われる可能性もあることを踏まえ、ご協力のご検討をお願い申し上げます。
- ・ご回答時は、パソコン、スマートフォンの画面から協力者の性に関する事柄が周囲の目に触れる可能性がございますので、回答時の環境に留意してください。また、回答後は、速やかにネットワーク上の本フォームから離れるようにお願いいたします。
- ・回答送信後は、研究以外の人の目に触れることができないように厳重に管理します。また研究終了後は破棄します。
- ・本フォーム入力後、送信をもって調査協力への同意と解釈させていただきます。また、送信後は研究参加を辞退することはできませんので、それを踏まえて研究へのご協力をご判断いただければと思います。
- ・本調査に関して、結果をお知りになりたい場合や、ご不明な点がある場合は、下記までご連絡いただけますようお願い申し上げます。また、本研究の協力によって心身に不調を生じた際には、臨床心理士の専門家等をご紹介させていただきますので下記までご連絡をお願い申し上げます。

それでは、まことにお手数ですが、ご協力いただける方は、下記の URL にアクセスされるか、QR コードを読み取っていただけますようお願いいたします。

URL

QR コード

東京医療保健大学大学院看護学研究科 博士課程 看護学専攻
松山妙子 ta-matsuyama@thcu.ac.jp
東京医療保健大学大学院看護学研究科 母性看護学・助産学 前教授
指導教員 斎藤益子 m-saito@thcu.ac.jp
〒152-8558 東京都目黒区東が丘 2-5-1

様式 3：調査フォーム

18～24歳の青年男女を対象とした調査のご協力のお願い

研究課題名：青年期を対象とした性の自己認識尺度の開発

本調査は、18～24歳の青年期を対象とした性の自己認識尺度の開発と信頼性・妥当性の検証することを目的としています。本調査の趣旨を理解しご協力いただける方は、本フォームの質問項目にお答えくださいますようお願いいたします。所要時間は20分前後です。調査フォームにご入力いただく際は、周囲に相談せず、そのまま正直にご回答をお願いいたします。

また、本研究が性の自己認識の尺度開発であることから、質問項目によっては、非常にデリケートな内容もあります。そのため、回答時に不愉快に思われる可能性もあることを踏まえ、ご協力のご検討をお願い申し上げます。ご回答時は、パソコン、スマートフォンの画面から協力者の性に関する事柄が周囲の目に触れる可能性がございますので、回答時の環境に留意してください。また、回答後は、速やかにネットワーク上の本フォームから離れるようにお願いいたします。

本フォーム入力後、送信をもって調査協力への同意と解釈させていただきます。また、送信後は研究参加を辞退することはできませんので、それを踏まえて研究へのご協力をご判断いただければと思います。

本調査に関して、結果をお知りになりたい場合や、ご不明な点がある場合は、下記までご連絡いただきますようお願い申し上げます。また、本研究の協力によって心身に不調を生じた際には、臨床心理士の専門家等をご紹介させていただきますので下記までご連絡をお願い申し上げます。

東京医療保健大学大学院看護学研究科 博士課程 看護学専攻
松山妙子 ta-matsuyama@thcu.ac.jp
東京医療保健大学大学院看護学研究科 母性看護学・助産学 前教授
指導教員 薩藤益子 m-saito@thcu.ac.jp
〒152-8558 東京都目黒区東が丘2-5-1

I. あなた自身のことについてお尋ねします。

次の質問のあてはまるものを1つ選びご回答お願ひいたします。選択式でなく数字での回答を求める質問に対しては、お手数ですが数字をご入力お願ひいたします。

1. あなたの身体的な性別をお選びください。
2. あなたの心理的な性別をお選びください。
3. あなたの年齢をご入力ください。
4. あなたの現在の所属をお選びください。

男	女	どちらともいえない
男	女	どちらともいえない
歳		

5. 現在交際しているパートナーはいますか？
6. あなたのマスターべーション（オナニー）の経験と頻度についてお尋ねします。

大学院生	大学生	短期大学生
専門学校生	その他（ ）	
いない	いる	不特定多数いる

7. あなたの性交（セックス）の経験と頻度についてお尋ねします。

毎日経験している	2～3日に1回程度経験している	1週間に1回程度経験している
2週間に1回程度経験している	1カ月に1回程度経験している	経験はあるが、ここしばらく（1カ月以上）はない
1度も経験したことがない		

- 7で「経験がある」と回答した方にお尋ねします。初性交時の年齢をご入力ください。

8. あなたはこれまで妊娠した（パートナーを妊娠させた）経験がありますか？
9. あなたはこれまでに、親や恋人、友人から「性的虐待」や「性暴力」（同意のないキスや性交等）を受けた経験はありますか？
10. あなたはこれまでに、性感染症にかかったことがありますか？
11. あなたはこれまでに、精神疾患（うつ病や引きこもり等）にかかったことがありますか？
12. 20歳以上の方のみお答えください：あなたはお酒を飲れますか？

歳	
ない	ある
飲む	飲まない 飲んだことはあるが今は飲まない

- 12で「飲む」と選択された方にお尋ねします。1日当たりの量と種類、頻度をご入力ください。

種類（ ）	量（ ）ml	週（ ）日
吸う	吸わない	吸ったことはあるが今は吸わない
本		

- 13で「吸う」を選択された方にお尋ねします。1日当たり何本吸われるかご入力ください。

全く満足していない	非常に満足している
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	

15. あなたの現在の収入（アルバイトを含む）に対する満足度について最も近いものをお選びください。

全く満足していない	非常に満足している
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	

16. あなたの1日あたりのインターネット（PC、スマートフォンを含む）の利用時間（学業や仕事以外）で該当するものをお選びください。

1時間以内	1～3時間以内	3～6時間以内
6～12時間以内	暇さえあれば常に	その他（ ）

II. あなたの性の自己認識に関するお尋ねします。

次からの質問は、あなたの性の自己認識に関してお尋ねする内容です。各項目で、1「全くそう思わない」～4「非常にそう思う」のうち該当する数字をお選びください。

<u>全くそう思わない</u>					<u>非常にそう思う</u>
	1	2	3	4	
37. 私は、自身の性を誘惑的に使ってセックスアピールをする。	1	2	3	4	
38. 私は、いちやいちやすることが好きだ。	1	2	3	4	
39. 私は、自分の性欲を満たすために性交（セックス）を迫ろうとする傾向がある。	1	2	3	4	
40. 私は、自身の性を利用して人を支配する傾向がある。	1	2	3	4	
41. 私は、人が自身を嫌がっているかどうかは気にしない。	1	2	3	4	
42. 私は、性に関してインターネットの影響を受ける。	1	2	3	4	
43. 私は、人の性欲の強さ・弱さについて気にしない。	1	2	3	4	
44. 私は、セクシーな衣装を身につけて視線を集めたい。	1	2	3	4	
45. 私は、自身のメリットのために引き換えとして行う性交（セックス）は容認できる。	1	2	3	4	

III. あなたの自尊感情についてお尋ねします。

次からの質問は、あなたの自尊感情についてお尋ねする内容です。各項目で、1 「強くそう思わない」～4 「強くそう思う」のうち該当する数字をお選びください。

<u>強くそう思わない</u>					<u>強くそう思う</u>
	1	2	3	4	
1. 私は、自分自身にだいたい満足している。	1	2	3	4	
2. 時々、自分はまったくダメだと思うことがある。	1	2	3	4	
3. 私はけっこう長所があると感じている。	1	2	3	4	
4. 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる。	1	2	3	4	
5. 私には誇れるものが大してないと感じる。	1	2	3	4	
6. 時々、自分は役に立たないと強く感じことがある。	1	2	3	4	
7. 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている。	1	2	3	4	
8. 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う。	1	2	3	4	
9. よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう。	1	2	3	4	
10. 私は、自分のことを前向きに考えている。	1	2	3	4	

IV. あなたの普段の行動の程度についてお尋ねします。

次からの質問は、あなたの普段の行動の程度に関する内容です。それぞれの行動について、1 「全くしない」、2 「することがある」、3 「時々する」、4 「よくする」のうち該当する数字をお選びください。

<u>全くしない</u>					<u>よくする</u>
	1	2	3	4	
1. たばこを吸うこと。	1	2	3	4	
2. 電車への駆け込み乗車。	1	2	3	4	
3. 信号無視すること。	1	2	3	4	
4. うそをつくこと。	1	2	3	4	
5. 飲酒運転すること。	1	2	3	4	
6. する休みすること。	1	2	3	4	
7. 大量の酒を飲むこと。	1	2	3	4	
8. 自動車やバイクでスピード違反をすること。	1	2	3	4	
9. 約束を破ること。	1	2	3	4	
10. パチンコや競馬などの賭け事をすること。	1	2	3	4	
11. 授業や待ち合わせに遅刻すること。	1	2	3	4	
12. 飲み会などでイッキ飲みをすること。	1	2	3	4	

V. あなたの価値観についてお尋ねします。

1. 人に何と思われようと自分の納得できる人生が大切だ。
2. 人生は自分のことではなく人のことを考える事が大切だ。
3. 何よりも自分の生活を充実させることが大切だ。
4. 皆が幸福にならなければ個人の幸福はない。
5. 人生にはお金が何より大切だ。
6. お金だけでは幸福になれない。
7. 人生は運に左右されることが多い。
8. 成功はその人の努力次第だ
9. 今が楽しければ良い。
10. 今より将来のために努力する。

まったくそう思わない

まったくそう思う

1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

様式 4：調査協力依頼書

18～24歳を対象とした性に関する調査のご協力のお願い

研究課題：青年期の性の自己認識尺度の信頼性・妥当性の検討

質問紙調査へのご協力のお願い

本調査は、18～24歳の高等教育機関に所属する青年期を対象とした性の自己認識尺度の信頼性・妥当性の検討をすることを目的としています。本尺度が学校保健室・思春期外来等で使用されることにより、個人の性に対する考え方・あり様が可視化され、自身の性の傾向を見つめ直すことができ、個人にあった保健指導へと繋げることが期待できます。研究期間は、2021年9月～2022年3月を予定しており、調査期間は、2021年9月〇日より2～3日程度を予定しております。

本調査の趣旨を理解しご協力いただける方は、「同意」ボタンをクリックし、本フォームの質問項目にお答えくださいますようお願いいたします。所要時間は20分前後です。調査フォームをご入力いただく際は、周囲に相談せず、ありのまま正直にご回答をお願いいたします。

倫理的配慮について

- 本研究は、東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会の承認および学長の研究許可を受けています（承認番号）。
- 本調査は決して強制ではありません。調査フォームには無記名ご回答いただくため、誰が回答したかは一切わかりません。
- ご回答いただいた内容は全て数量的統計的に処理し、分析結果のみ学術論文および学術集会等で公表することがございますが、個人等が特定されることは一切ございません。
- 回答の途中（送信前）に限り参加の中止・撤回ができます。匿名化されたデータとなるため回答後の撤回は対応致しかねます。調査にご協力いただけない場合でも不利益になることは一切ございません。ご回答いただいたデータは研究責任者が厳重に管理し、研究目的以外では一切使用しません。
- ご回答いただいた内容は電子化し、ファイルには暗号キーを設けて記憶媒体（USB）に保存致します。電子データを保存しているUSBは、東京医療保健大学立川キャンパス内の鍵付きのキャビネットにて厳重に管理し、終了後はUSBも速やかに粉碎いたします。
- 調査フォームからの送信をもって、調査協力にご同意いただいたものとさせていただきます。

ご回答にあたって

- 調査協力についてご同意いただける場合は下記の「同意」ボタンをクリックし、調査フォームへのアクセスをお願い申し上げます。回答の締め切りは、〇月△日（△）までとさせていただきます。
- 性の自己認識に関する研究であるため、非常にデリケートな内容が含まれる質問もございます。そのため、回答時に不愉快に思われる可能性があることを踏まえ、ご協力のご検討をお願い申し上げます。
- ご回答時は、パソコン、スマートフォンの画面から協力者の性に関する事柄が周囲の目に触れる可能性がございますので、回答時の環境（例：自宅の自室で回答する等）に留意していただき、終了後は、速やかに調査フォームから離れる（ブラウザを閉じる）ようお願い致します。
- 調査・回答フォームにアクセスした際に発生する通信費は、自己負担となりますのでご承知おきください。
- 本調査について疑問等が生じる等ご質問がございましたら、研究代表者にご連絡ください。
- 本研究の協力によって心身に不調を生じた際には、臨床心理士の専門家等をご紹介させていただきますので下記までご連絡をお願い申し上げます。

2021年8月25日作成

研究代表者： 松山 妙子

所属：東京医療保健大学大学院看護学研究科博士課程

E-mail : ta-matsuyama@thcu.ac.jp

指導教授： 大島 久二

齋藤 益子

同意する

様式5：調査フォーム

I. あなた自身のことについてお尋ねします

次の質問のあてはまるものを1つ選びご回答をお願いいたします。選択式ではなく数字での回答を求める質問に対しては、お手数ですが数字をご入力をお願いいたします。

1. あなたの年齢をご入力ください。

歳

2. あなたの現在の所属をお選びください。

大学	短期大学	専門学校	その他 ()
----	------	------	------------

3. あなたの現在の専攻をお選びください。

文系	理系	医療系	その他 ()
----	----	-----	------------

4. 現在交際しているパートナーの有無についてお選びください。

いない	いる	不特定多数いる
-----	----	---------

5. あなたのパートナー（恋人）に対する考え方についてあてはまるものを1つお選びください。

常にパートナーがいないとダメだ	できたらパートナーが欲しい	パートナーはバーチャルの次元で良い	パートナーが居なくても（1人でも）良い
-----------------	---------------	-------------------	---------------------

6. あなたの性欲の程度についてあてはまるものを1つお選びください。

弱い	やや弱い	やや強い	強い
----	------	------	----

7. 親や恋人、友人から「性的虐待」や「性暴力」（同意のないキスや性交等）を受けた経験の有無についてお選びください。

経験なし	経験あり
------	------

8. 性感染症にかかった経験の有無についてお選びください。

経験なし	経験あり
------	------

9. これまでの性交（セックス）経験の有無についてお選びください。

経験なし	経験あり
------	------

「9」で「経験あり」と回答した方にお尋ねします。

9-1. 初めて性交（セックス）した年齢をご入力ください。

歳

9-2. これまで性交（セックス）する際は、相手の合意が得られて行っていましたか。

該当するものを1つお選びください。

全く相手の合意を確認していない	ほとんど相手の合意を確認していない	概ね相手の合意を確認している	常に相手の合意を確認している
-----------------	-------------------	----------------	----------------

9-3. これまで妊娠した（妊娠させた）経験の有無についてお選びください。

経験なし	経験あり
------	------

II. あなたの性に対する認識についてお尋ねします

次からの質問は、あなたの性に対する認識に関してお尋ねする内容です。

各項目で、1「全くそう思わない」～4「非常にそう思う」のうち該当する数字を1つお選びください。

	全くそう思わない	そう思わない	そう思つ	非常にそう思つ
1. 私は、匂いや音などの五感から得られる性的な好み（フェチ）がある	1	2	3	4
2. 私は、人前で行える程度の「手を繋ぐ」「腕を組む」等のスキンシップを求める	1	2	3	4
3. 私は、人との身体的な距離感が近いほど幸せを感じる	1	2	3	4
4. 私は、人にも自分と同じくらいの愛情を求めてしまう	1	2	3	4
5. 私は、スキンシップ以上のイチャイチャを好む	1	2	3	4
6. 私は、人との心の距離感の近さで幸せを感じる	1	2	3	4
7. 私は、性欲を満たすために性交（セックス）を迫る傾向がある	1	2	3	4
8. 私は、自身の性的魅力を使って誘惑する	1	2	3	4
9. 私は、自分の性慾は性交（セックス）で満たされる（と思う）	1	2	3	4
10. 私は、金品等のために行う性交（セックス）はしても良いと思う	1	2	3	4
11. 私は、アダルトサイト等の画像や動画と同じような性交（セックス）がしたい	1	2	3	4
12. 私は、SNSで出会ったよく分からぬ相手とでも性交（セックス）できる	1	2	3	4
13. 私は、人と良好なコミュニケーションを図れる	1	2	3	4
14. 私は、人に対して心をオープンにさらけ出せる	1	2	3	4
15. 私は、人に対して思いやりが深い	1	2	3	4
16. 私は、人に対して愛情が深い	1	2	3	4
17. 私は、困っている人を見ると放っておけない	1	2	3	4
18. 私は、心を通じていれば身体的な性的快楽は求めない	1	2	3	4
19. 私は、自分の身体的な性別に満足している	1	2	3	4
20. 私は、自身の好みのタイプの性（性指向）を理解している	1	2	3	4
21. 私は、自分の身体が子どもをつくるための機能を有しているか関心がある	1	2	3	4
22. 私は、性交（セックス）時の身体の生理的反応（濡れる・勃起する等）に関心がある	1	2	3	4
23. 私は、自分の性的な快感が得られる方法を知っている	1	2	3	4
24. 私は、年を重ねると妊娠しにくくなることを知っている	1	2	3	4
25. 私は、不妊症にならない生活（非喫煙・性感染症予防等）について関心がある	1	2	3	4

III. あなたの自尊感情についてお尋ねします

次からの質問は、あなたの自尊感情についてお尋ねする内容です。

各項目で、1「強くそう思わない」～4「強くそう思う」のうち該当する数字を1つお選びください。

	強くそう思わない そう思わない	そう思つ う思つ	強くそう思つ う思つ
1. 私は、自分自身にだいたい満足している。	1	2	3
2. 時々、自分はまったくダメだと思うことがある。	1	2	3
3. 私はけっこう長所があると感じている。	1	2	3
4. 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる。	1	2	3
5. 私には誇れるものが大してないと感じる。	1	2	3
6. 時々、自分は役に立たないと強く感じことがある。	1	2	3
7. 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている。	1	2	3
8. 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う。	1	2	3
9. よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう。	1	2	3
10. 私は、自分のことを前向きに考えている。	1	2	3

IV. あなたの性的自己意識についてお尋ねします

次からの質問は、あなたの性的自己意識に関してお尋ねする内容です。

各項目で、1「全くそう思わない」～4「とてもそう思う」のうち該当する数字を1つお選びください。

	全くそう思わない そう思わない	そう思つ う思つ	とてもそう思つ う思つ
1. 私はセックスすること（性的関係を持つこと）に幸福を感じる（と思う）	1	2	3
2. 私はセックス（性的関係を持つこと）があまり好きではない（と思う）	1	2	3
3. 私にとってセックス（性的関係を持つこと）は楽しいことだ（と思う）	1	2	3
4. 私にとってセックス（性的関係を持つこと）は大切なことだ（と思う）	1	2	3
5. 今の私がセックスをすることは良くないことだと思う	1	2	3
6. 私は性的関係を持つための精神的準備ができると思っていると思う	1	2	3
7. 私は年齢的にみて性的関係を持つのに十分おとなであると思う	1	2	3
8. 私は異性からもてるほうだと思う	1	2	3
9. 私は女性（男性）として魅力があるほうだと思う	1	2	3
10. 人は私の容貌やスタイルなど外見をほめてくれると思う	1	2	3
11. 私は自分の容貌やスタイルに満足している	1	2	3

12. 私は自分のことが好きである	1	2	3	4
13. 私の外見は自分の理想とは違っている	1	2	3	4
14. 私は自分が価値ある人間であると感じている	1	2	3	4
15. 私の恋人は、私を魅力的だと感じている（感じてくれるだろう）と思う	1	2	3	4

V. あなたの性的リスク対処意識についてお尋ねします

次からの質問は、あなたの性的リスク対処意識に関してお尋ねする内容です。

各項目で、1「全くそう思わない」～4「とてもそう思う」のうち該当する数字を1つお選びください。

	全くそう思わない	そう思わない	そう思つ	とてもそう思つ
1. 性的関係において自分の望むこと、望まないことを相手に伝えオープンに話し合うことができる（と思う）	1	2	3	4
2. セックスの相手と避妊やエイズ・性感染症の予防について話し合うことは難しい（と思う）	1	2	3	4
3. もし望まない妊娠に至ったとしたら（自分または相手が）相手と十分話し合うことができる（と思う）	1	2	3	4
4. 私は自分で好きな人を見つけて交際することができる（と思う）	1	2	3	4
5. 私は好きな人に素直に自分の気持ちを表現することができる（と思う）	1	2	3	4
6. 私は自分の性や体に関わる健康のことについてあまり深く考えたことがない	1	2	3	4
7. 性的関係において相手の気持ちや意思を配慮し尊重することができる（と思う）	1	2	3	4
8. 私は好きな人に自分の魅力をアピールすることができる（と思う）	1	2	3	4
9. 私は自分の性行動について深く考えたことがない	1	2	3	4
10. 私は望まない妊娠やエイズ・性感染症などのリスクから身を守るために情報を収集したり相談したりすることができる（と思う）	1	2	3	4
11. 性やセックスについてまじめに考えたり話したりすることは恥ずかしい	1	2	3	4
12. 私は好きな人と愛情と信頼をはぐくむ安定した関係を持つことができる（と思う）	1	2	3	4
13. いつ誰と性関係を持つか持たないかを自分の意思で決めることができる（と思う）	1	2	3	4
14. 自分が傷つきたくないで、恋愛や性的な関係に入るのを避けてしまう（と思う）	1	2	3	4
15. コンドームを正しく使ってエイズや性感染症を予防する安全なセックスを実行できる自信がある	1	2	3	4
16. 私はセックスの場面では相手まかせになってしまふ（と思う）	1	2	3	4
17. 望まない妊娠や性感染症（クラミジアや淋病等）などのトラブルが起こったらどう対処していいかわからない（と思う）	1	2	3	4
18. もし望まない妊娠に至ったら（自分または相手が）、産むにせよ生まれないにせよ良く考えて責任ある行動をとることができる（と思う）	1	2	3	4